◎議長（青野隆一議員）

皆さん、おはようございます。

出席議員も定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

この際、申し上げます。市長より発言の申出がありますので、これを許します。市長。

◎市長（菅根光雄君）

去る12月10日の菅野修一議員の一般質問に対する私の答弁の中で、「中間搾取」と申し上げたところを「中間マージン」に訂正させていただくよう議長の許可をお願い申し上げます。

◎議長（青野隆一議員）

ただいまの、市長からの発言の訂正の申出については、議長において、許可いたします。

次に、商工観光課長より発言の申出がありますのでこれを許します。商工観光課長。

◎商工観光課長（間宮康介君）

貴重な時間をいただき大変申し訳ございません。去る12月10日の星川薫議員の一般質問に対する私の答弁におきまして、徳良湖花畑の年間維持経費を「現地点になりますけれども、年間の維持経費は約2,500万円ほどかかると算出しております」と申し上げましたが、「現在複数の維持管理の仕方では試算をしているところがございます」に訂正させていただきたいと思っております。議長の許可をお願い申し上げます。

◎議長（青野隆一議員）

ただいまの、商工観光課長からの発言の訂正の申出については、議長において、許可いたします。

次に、尾花沢市ボランティア連絡協議会より、議場内の撮影の許可願がありますので、議長においてこれを許可いたします。

本日の会議は、議事日程第7号によって進めます。

先週に引き続き一般質問を行います。

まず、5番 小関英子議員の発言を許します。小関英子議員。

〔5番 小関英子 議員 登壇〕

◎5番（小関英子議員）

令和3年12月定例会一般質問を通告にしたがい質問させていただきます。

1. 芭蕉来訪333年記念事業についてお伺いいたします。令和4年は元禄2年1689年5月7日、現在の7月3日、松尾芭蕉が門人曾良をともない、山刀伐峠の険しい山道を越えて、尾花沢の鈴木清風宅を訪ねて10泊11日滞在してから333年になります。現在、最上・庄内おくのほそ道スタンプラリーが、令和3年10月1日

金曜日から令和4年1月31日月曜日まで行われています。その中で、村山地域&隣県おすすめ立ち寄りスポットとして、芭蕉、清風歴史資料館も入っています。今後のウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、鈴木清風と松尾芭蕉出合いの尾花沢をどう発信していくかお考えか3点お伺いいたします。

1点目、おくのほそ道ゆかりの地である最上町や山形市、酒田市、鶴岡市などと連携した記念事業を企画してはどうでしょうか。2点目、尾花沢市内で松尾芭蕉ゆかりの場所を訪ねて、鈴木清風とのつながりの再発見の学びの場となるような、尾花沢版ミニおくのほそ道スタンプラリーを企画してはどうでしょうか。3点目、昭和60年代に整備された山刀伐峠の頂上にあるログハウス風の素敵なトイレがあります。しかし30年以上経過し、経年劣化が見受けられます。今年は、利用者の安全安心のために修繕されたとお聞きしています。今後より安全で管理しやすいトイレの整備を図っていく必要があると考えます。今後の対策をお伺いいたします。

2. 上の畑焼の発掘調査についてお伺いいたします。上の畑焼は、山形県内の四大古窯、米沢成島焼、山形平清水焼、新庄東山焼の一つであり、東北地方の磁器窯として、宮城県の切り込み焼き、福島県の会津本郷焼きについて、3番目の歴史を持っています。しかし、なぜか天保時代の10年余りで釜の火が消えて以来幻の焼き物となりました。昭和49年に窯元を探し当て、伊藤瓢堂氏が銀山陶石を使い長年研究され、幻の上の畑焼を再興されて、昭和55年には、上の畑焼陶芸センターを開業され40年を迎えました。多くの賞を受賞されています。本年行われた東京オリンピック2020大会記念プロジェクト実行委員会により、山形県伝統工芸品として上の畑焼が選出され、記念品として伊藤瓢堂氏の作品が大会関係者に贈呈されました。そして、11月には各地での個展の開催や、国内のみならずニューヨークやパリなど海外にも進出し、上の畑焼の普及に貢献していること、また長年にわたり各地の保育園や小中学校において、陶芸と茶道教室を開催され、文化の大切さを伝承されていることや、尾花沢匠の会を立ち上げ、地元の産業振興に寄与されていることなどが認められて、第67回齋藤茂吉文化賞を受賞されました。上の畑焼を次代に継承し、文化創生のまち尾花沢を、全国にそして海外に発信し、上の畑焼の益々の発展のために2点お伺いいたします。

1点目、上の畑焼の発掘調査は数回行われていますが、窯周辺の発掘は行われましたが、窯本体の発掘

調査が行われていないとお聞きしています。窯周辺の管理が続けられている今この時こそ、窯本体の発掘調査を行うチャンスと考えます。今後の取り組みをお伺いいたします。2点目、上の畑焼の歴史を傳承していくために、上の畑焼の常設展示のために、上の畑焼伝承館を設けていく考えがあるかお伺いいたします。

3. 子宮頸がんワクチン接種の支援拡充についてお伺いいたします。子宮頸がんは、国内で年間約11,000人が新たに診断され、3,000人近くが亡くなっている病気です。HPVヒトパピローマウイルス感染予防には、ワクチン接種が効果があるとして、2013年4月、小学校6年生から高校1年生の女子を対象に、公費で負担する定期接種が始まりました。しかし、接種後に全身の痛みや痺れなどの症状などを訴える人が多くあり、6月積極的推奨の中止を通知し、公費負担は維持しましたが、対象者への通知はなくなり、一時のはずだった中止措置は8年に及びました。その結果、中止前に70%を超えていた摂取率は1%を下回りました。諸外国では、ワクチン接種の普及により、がんの発生が抑えられ、子宮頸がんの発生や死亡の減少の研究も進んでいます。令和4年から積極的勧奨が行われることとなります。ワクチンは、本来の対象年齢を過ぎて成人青年になっても一定の予防効果があるとの報告があります。子宮頸がんワクチン接種への支援拡充について2点お伺いいたします。

1点目、令和2年度から、高校1年生の女子に対して子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が行われ、75名の方に情報提供が行われ、8名の方が接種を受けることができました。今年度は中学1年生から高校1年生までの女子214名に情報提供がされたと聞いています。昨年度までに積極的勧奨が控えられた方への支援が国においても検討されています。青森県平川市では独自に19歳まで無料で摂取できる事業を開始し、30人が接種し、本年限りの事業でしたが、好評であることから来年も継続すると話もされています。本市の今後の対応をお伺いいたします。2点目、子宮頸がんワクチン接種の積極的勧奨を行い、個別に情報を提供していくこととともに、子宮頸がんの定期検診受診が大切と考えます。今後、より受診者を増やすためにどのような対策をお考えかお伺いいたします。

4. リニューアル補助の拡充についてお伺いいたします。商業店舗活性化補助金事業は、令和2年4月1日から令和5年3月31日までの期間で商業店舗及びリニューアル、空き店舗を活用し商業店舗を出店する事業、コミュニティ施設を運営する事業があります。こ

れまでに継続されている事業で2点お伺いいたします。

1. これまでの実績と市民からはどのような意見があるかお伺いいたします。2点目、商業店舗出店及びリニューアルについては、同一の店舗につき1回限りとするという条件がありますが、今後緩和していくお考えがあるかお伺いいたします。以上、質問席からの質問といたします。

◎議長（青野隆一議員）

市長。

〔市長 菅根光雄 君 登壇〕

◎市長（菅根光雄 君）

ただ今、小関英子議員より、大きく4点についてご質問をいただきました。随時お答え申し上げます。

芭蕉来訪記念事業とスタンプラリーについて、関連がありますので一括してお答えいたします。

令和4年は芭蕉来訪333年の年になります。議員からは333年というトリプルスリーの、他市町と連携した記念事業を開催してはという提案ですが、令和元年度に芭蕉来訪330年を記念した事業を県内外の市町村と連携し実施した経緯があり、関係する市町にも確認したところ現時点で連携した事業を開催する考えはありませんでした。

松尾芭蕉は、鈴木清風宅に3泊、養泉寺に7泊の10泊逗留しており、旅の中で一番長く滞在した地がここ尾花沢です。鈴木清風という人物がいたからこそ尾花沢を訪れ、また鈴木清風という人物にも様々な逸話があるようです。そのため、今年度開催した鈴木清風没後300年の特別展のような、今一度、清風自身にスポットライトを当てた市独自の企画を検討し、市内外に発信していきたいと考えております。

市内の芭蕉が訪れたゆかりの地を巡るスタンプラリーについては、常に管理者が常駐していない場所も多くあり、スマートフォン等を活用した取り組みを検討してみたいと思います。それは一過性のものではなく、QRコードを活用しGPS機能も活かしながら場所の案内のほか、文字や音声等により解説もできるようにしていければと考えています。その際、スタンプラリー等のイベントを開催する場合は、電子スタンプでのラリーも検討してまいります。

次に、山刀伐峠の山頂駐車場に設置しているトイレについてですが、尾花沢市と最上町で構成する「おくのほそ道山刀伐峠保全整備協議会」が管理しており、清掃業務については、市野々地区に委託しています。

このトイレは、30年以上前に設置された汲み取り式トイレであり、電気や水道もなく現在は維持管理が大

変難しいものとなっています。

そのため、トイレのあり方については協議会でもたびたび議論されております。芭蕉、清風歴史資料館のトイレも改修され、設置当時と比べればコンビニエンスストアも整備されております。また、山刀伐峠の自然環境への負荷も心配されるものと意見が出されています。

今後は更に協議会であり方について話し合っていますが、ハイシーズンに移動式の洋式トイレを設置するなども含め検討してまいります。

次に、上の畑焼の窯本体発掘調査についてのご質問にお答えいたします。これまで行ってきた発掘調査の経緯について申し上げます。発掘調査は昭和56年から58年の3ヶ年にわたり、窯本体ではなく物原すなわち捨場で、上の畑窯でどんなものが作られていたのかを知る目的で実施されました。窯跡については、昭和49年に伊藤瓢堂氏が廃村となった上の畑村にあった窯元を探し出し、窯跡周辺から発見した陶器片など上の畑焼きの復興が始まりました。試行錯誤を繰り返しながら、見事復興に成功され、現在に至っています。窯本体の発掘調査を行ってはどうかのお尋ねですが、窯本体の発掘調査については、発掘の目的や考え方などを伊藤瓢堂氏と十分に協議し、精査したうえで検討してまいります。

次に、上の畑焼の歴史伝承についてのご質問にお答えいたします。上の畑焼陶芸センター周辺の空き家を利用し常設展示可能な伝承館を設けてはどうかのお尋ねですが、上の畑焼陶芸センター周辺には、上柳健康増進施設や玉野地区公民館など常設展示が可能な公共的な施設があるため、それらの施設を活用することが可能と考えます。今年、芭蕉、清風歴史資料館で上の畑焼復興40年の歩みとして特別展を開催し、多くの方々から復興までの軌跡や復元された陶壁画をご覧いただきました。また、パラリンピックの聖火リレーに使われる希望の火で、市内全小中学校・幼稚園・保育園の最高学年の上の畑焼メモリアル手形が作成され、上の畑焼がより身近なものに感じられたと思います。多くの方々から見ていただける施設で、より多くの方々に上の畑焼を知ってもらえるよう伊藤瓢堂氏とも話しをしながら検討してまいります。

子宮頸がんワクチンの接種についてですが、接種については国が示す指針に沿って実施してまいりました。令和2年度は高校1年生女子、令和3年度は定期接種の標準年齢となる中学1年生から高校1年生までの女子へ個別で案内通知を送付し、併せて子宮頸がん予防

に関する情報提供を市のホームページでも行っていきます。その結果、令和2年度は8名、令和3年度は10月末時点で17名の方が接種しています。

国からは平成25年に積極的な勧奨をすべきではないとの通知が出され、積極的な勧奨を控えてきましたが、令和3年11月26日付の厚生労働省通知により、平成25年の通知は廃止されることになりました。令和4年4月から、定期接種の標準年齢の方々へ積極的な接種勧奨を個別に通知することが示されました。しかし、これに伴って、全国一斉に接種勧奨が開始されると、HPVワクチンの供給不足や、接種医療機関の受け入れ体制の混乱が懸念されることから、接種を希望する方が適切に接種できるよう、勧奨年齢を区切って段階的に個別勧奨を行うなどの対応を検討してまいります。

また、これまでの積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方への対応については、現在、厚生労働省予防接種・ワクチン分科会において、公費による接種機会の提供等に向けて、対象者や期間等の議論を開始したとのことです。市が独自に定期接種対象外の方に接種を進めることは、先にお示ししたとおり、ワクチンの量や医療機関の接種体制の問題もあり、本来の接種対象者が接種できなくなる恐れがあります。国の方針が決定次第、国の指示に基づいて速やかに接種勧奨を実施し、接種体制を整えてまいります。まずは、子宮頸がんワクチンに対する正しい理解が得られるよう周知を図ってまいります。

国で定めるがん検診指針によると、20歳以上の女性は子宮頸がん検診を2年に1回受けるよう勧められています。本市では、希望する方に隔年ではなく毎年受診機会を確保しています。更に、昨年度からは、北村山公立病院でも検診を受けられるようにし、検診を受けやすくするための体制確保にも取り組んだところです。また、21歳の方には受診のきっかけとなるよう検診料金を無料に設定しています。今年度は10月のがん検診推進強化月間に合わせて、市報でがん検診の情報提供を行うとともに、乳幼児健診に来たお母さん方のがん検診の勧奨チラシを配布しました。子宮頸がんは、20～30代に増えてきているがんですが、子宮頸がんワクチンの接種やがん検診によって防げるがんでもあります。20歳になったらがん検診を受けていただき、大切な自分の体を自分で守れるようワクチン接種とがん検診の重要性を周知してまいります。

商業店舗活性化補助金事業に関するご質問ですが、市内の商業振興を図ることを目的に平成18年度から実施し、新たに新店を出す際や店舗をリニューアルする際

に、多くの皆様からご利用をいただいています。

令和2年度からは、空き店舗を活用した出店やコミュニティ施設の運営を実施する場合の家賃補助を個人事業者にも広げ、新型コロナウイルス感染症の拡大により多方面で「自粛」が余儀なくされた事業者への支援を拡充したところです。

実績としては、直近の5カ年で新規出店とリニューアルを合わせて21件でございます。そのうち、令和2年度は6件、今年度も今現在で3件になり、コロナ禍の自粛期間中において店舗をリニューアルした事例が多くなっています。

申請された事業者からは、「店舗環境の改善など、設備投資がなかなかできない。支援してもらえて助かる。」や「営業自粛が続いている中で、アフターコロナに向け、新たな事業を実施するにも資金がない。この後押しは非常にうれしい。」などの声を頂戴しており、今後も、市内事業者をしっかりと支援できるよう事業継続してまいります。

この補助金は、新規出店、または各店舗が計画的なリニューアルを実施し、売上の向上と商業振興を図ることを目的としているため、平等性の観点からも、事業対象は、同一店舗につき1回限りとしています。しかし、尾花沢市商工会においても創業支援関連事業がありますので、事業者からのニーズを精査し、事業の継承や営業継続のために検討していく課題であると考えます。以上答弁とさせていただきます。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

丁寧な説明いただきまして、自席から順次再質問させていただきます。

まず初めに、芭蕉来訪333年記念事業についてお伺いいたします。市長のほうからは、スマートフォンを使った取り組みをやっていききたいということで答弁の中にあつたんですけど、一過性のものでなく考えているということで、具体的にどのような形で考えているかお伺いしたいと思います。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

スマートフォンを活用した、芭蕉のゆかりの地を巡る事業でございますけれども、QRコードありますけれども、そちらのQRコードを読み込みますと、目的地までガイドが出たりとか、あとそのゆかりの地の説明だとか詳細な説明が、各々で回る際に各々で検索す

ることができるという形のものになります。ですので、その知識がなくても、各々ですべての経由地を設定しながら回るができる仕組みとなっております。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり今は、多くの方がスマートフォンをお持ちだということで、そしてまたスマートフォンでQRコードを読み込むと本当に多くの情報を読み取ることができる、または音声とかにもできるということで、大変に素晴らしいことだと思いますので、これからずっと続けていけるようなことをしていただきたいと思いません。先ほど言った山形県の最上・庄内おくのほそ道スタンプラリーというのは、こういう形でスタンプを押す形になっていて、庄内と最上がメインなんですけれども、その中にもしっかりと芭蕉、清風歴史資料館も入っているということで、これは芭蕉、清風歴史資料館を資料にさせていただいたんですけども、やはりしっかりと他市町村との連携をしていくことも大事なのではないかなと思いますので、ご一考お願いしたいと思います。あと中にはこのスマートフォンをお持ちでない方がいらっしゃると思うんですけども、そういう方に対してもしっかりと芭蕉と清風の関係性がわかるような取り組みとか、あと私も実は尾花沢に来てからわかったことがありますので、そういう形で一つ一つ尾花沢でのストーリーをしっかりと具体的に表現できることは大事なのかなと思いますけれども、ストーリー性のあることを皆さんに伝えられるような何かこう取り組みなどはお考えではないでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

スマートフォンをお持ちでない方も中にはいらっしゃるということでなんですけれども、スマートフォンを持っていない方に向けてといいますか、独自の企画といたしまして、松尾芭蕉と鈴木清風の繋がりを再発見できるような企画、いわゆるガイドをつけて市内のゆかりの地を、ガイドの説明を聞きながら回るツアー、

半日程度のツアーなども企画していければなというふうに考えているところです。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり生の声で聞くことができ、またその場でいろんなものを見ながら説明を受けるというのは、本当にリアルなことなので大事なのかなと思います。今年ですね、清風さんが亡くなられて300年ということで、没後300年の企画展に私も行かせていただきましたけれど、やはりその時に、今年はコロナ禍ということがありまして、本当に少人数での企画になったということも、少人数での行事が行われたということも聞いておりますので、ぜひそういうところも、今年できなかったことも含めて、ぜひガイド付きのツアーができることを祈っています。7月3日から13日まで滞在しておりますが、その時期に合わせてのお考えでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

具体的な事業の中身につきましては、これから検討していくところでございますけれども、やはり7月3日に尾花沢に来ているということもありますので、その辺を踏まえた形で検討していきたいというふうに考えております。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり芭蕉さんが10日間尾花沢にいらっしゃったその時期にするということで、どういうときに尾花沢に来ていたのかというのがすごく感じられるのではないかなと思うので、ぜひその時期、そして一過性でない電子版スタンプラリーということもぜひお願いしたいと思います。あと、以前芭蕉、清風歴史資料館に来られていた方が、養泉寺どっちにあるんだろうという、お話などを伺った時に、案内板があるといいのではないかとということで提案させていただいて、一昨年いろいろどういう形で設置をしたらいいかっていうことで、皆さんに検討していただいて、今、電柱のほうに素敵な看板が掲げられてありますが、その看板と連動して、このQRコードを使ったGPSを活用した場所等ありますけれども、あの看板にはQRコードは付いていないので、その看板をせっかく設置していただいたので、その看板を活用することなど考えていることはありませんでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

スマートフォンを活用した形の芭蕉ゆかりの地を巡る取り組みと合わせまして、令和元年度に整備いたしました電柱を使った看板でありますけれども、そちらのほうにもQRコードをつけて、そちらを読み込むことで行き先をナビゲートできるような形をできるようにちょっと検討のほうさせていただきたいと思います。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

本当に素敵な看板でありますので、デザインも素敵で見やすい看板です。ただ付いている部分がちょっと上のほうなのかなとは思いますが、やっぱりQRコードを読み込むにはちょっと届かないかなと思ったんですけれども、そこら辺はどういうふうにお考えでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

どれぐらいの距離だと読めるかもちょっと試していないので、その辺も加味しながら検討させていただきたいと思います。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

ぜひウィズコロナそしてアフターコロナということで、やはり感染予防には注意しながらも、人の流れが少しずつ戻ってきているかなと思いますので、先日も芭蕉、清風歴史資料館に拝観させていただいた時に、県外からも来られていた方がいらっしゃいましたので、本当にこう関心のある方が、芭蕉、清風歴史資料館に来ていただいているんだなあとということで、あと館長さんにもいろいろ質問されておりましたので、やっぱりそうやって関心ある方にしっかりと、鈴木清風さんがいたからこそ、芭蕉が長逗留した尾花沢の良いところをしっかりと発信していければなと思いますので、ぜひ素晴らしい企画で、そしてまた、長く使っていただけるものをお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

次に芭蕉さんが通られた山刀伐峠の頂上にあるトイレについて再質問させていただきます。今年、改修工事が行われたということをお聞きしまして、やはり管理が大変厳しくなっているということもお聞きしたと

ころです。市長の答弁にもありましたが、今後、ハイシーズンに移動式の洋式トイレを設置することも含めて検討しているということがありましたけれども、今は頂上付近に一箇所にありますけれども、登って行くところが尾花沢市側と最上町側のほうにもあるので、ぜひその上ではなく、下のほうに公園のほうとか広場があるので、そういうところに設置していったらどうかと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(間宮康介君)

はいお答えいたします。市長の答弁にもありましたとおり、山頂付近のトイレがかなり老朽化しているということもございまして、そのハイシーズン、ようはお客様が大勢おいでになる際に、移動式のトイレというようなものを設置してはどうかと検討していきたいというようなこととございます。場所につきましては、駐車場、最上町側、尾花沢市側についてもその設置場所として検討はしていきたいと考えてございます。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり、その場所までは、車で来られる方が多いかなと思いますけれども、30年前と比べればコンビニエンスストアなどもやはり整備されたとは思いますが、やはり現場に来てからトイレがないということは、来ていただいた方に大変不便を感じさせるのではないかなと思いますので、やはり安心して使えるトイレを設置できるように、今年修繕したということなので、すぐに対応しなくても大丈夫なのかと思いますが、ただ、頂上のトイレに行かせていただいたんですけど、やはりちょっと暗い感じがして、管理するのはちょっと大変だっというお話も聞いておりますので、やはり今後管理をしっかりして、そして使っていただく人に安心して使っていただけるトイレの設置をお願いしたいと思います。

次に、上の畑焼の発掘調査について再質問させていただきます。今後、伊藤瓢堂先生としっかり協議をした上で検討していきたいということとお話がありました。今年復興40周年ということで、芭蕉、清風歴史資料館のほうで、企画展があったので私も見させていただきました。その時にちょっと瓢堂先生とお会いすることがあり、いろいろお話を伺ったところであります。今回、銀嶺荘にあった陶壁面を修復されたということで、いろいろ説明をいただいたところです。そしてそ

のあと悠美館のほうに設置されているようでありますが、やはりかなり大きいものなので、ゆっくり見るにはかなりのスペースが必要かなと思ったところです。今は悠美館の階段の下のほうになんかこうきつそうな感じで設置されている状況でしたので、ぜひあの皆さんがゆっくりと見れるような環境を作っていただきたいと思いますが、市長の答弁のほうにも、上柳健康増進施設や玉野地区公民館など常設展示が可能な施設があるということなので、協議はこれからになると思いますが、ぜひ市民の方にも、そしてまた県外からとか来られる、今後アフターコロナになれば、国外からもお客さんは来ていただけると思いますので、ぜひ瓢堂先生の作品が皆さんに周知できるようにお願いしたいと思います。具体的なことはこれからなのかもしれませんが、どのような形でお考えでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

今年度、40周年のあゆみということで、芭蕉、清風歴史資料館のほうで展示したところでございます。その陶壁面につきましては、議員仰るように、悠美館の階段下のスペースに展示しているところでございますけれども、やはりより多くの人から見ていただけるような形で、またそういった施設で展示していくのが一番良いとは思っているところです。ただなかなか展示施設はどの施設が一番良いのかというのはありますので、その辺より多くの人から見ていただけるような施設がどこなのかというのを含めまして検討させていただきたいというふうに思います。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

ぜひより多くの方に、上の畑焼の素晴らしさを、そしてまた、伊藤瓢堂先生がストーリー性をもっていることを語られておりますので、それをしっかりと具現化というか、形にさせていただくことも必要なかなと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

次に、上の畑焼の発掘調査のことですけれども、やっぱり本体ではなく、3年間にわたって、物原、捨場のほうから発掘されたということで、やはり40周年のあゆみの時にも、本当にこう小さいものから、本当に多くのものが展示されておりました。伊藤瓢堂先生とお話した時に、やはり窯元のほうからきてやはり当時の陶人たちも試行錯誤しながら上の畑焼を焼かれて

いたようだということで、お話をされておりました。今、瓢堂先生もその窯本体がどこにあるかってことがあるので、毎年草払いをしながら、しっかり管理されているということも聞いております。ですので、しっかりと管理されている時に、窯本体の発掘をして、どのような形で上の畑焼が焼かれたのかというのがわかるということも大事なのではないかなと思いますので、ただ、今その窯本体がある所の土地の持ち主が不明のようだという声も聞いておりますが、それに対しては今後どういう対応ができるかお伺いしたいと思います。

◎議長（青野隆一議員）

社会教育課長。

◎社会教育課長（鈴木敏君）

市長答弁にもありましたように、上の畑焼の発掘調査につきましては、発掘の目的ですとか考え方などを瓢堂氏と十分協議して進めて、精査した上で検討して行くということでございますので、土地の所有者などにつきましても、その後の対応になるかと思われます。以上です。

◎議長（青野隆一議員）

小関英子議員。

◎5番（小関英子議員）

やはりこの40年というのは、一つの節目という意味があるのではないかなと思います。次の10年後の50年に向けて、なんとかその上の畑焼の歴史を詳らかにして、しっかりと後世に伝えていけるような取り組みをしていっていただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

次に、子宮頸がんワクチン接種について再質問させていただきます。やはり昨年から先んじて、令和2年には高校1年生の女子、対象学年の最終学年になる方に、しっかりと個別接種をしていただけたということは、やはりしっかりと女性の健康と命を守っていくという意識を強く思っていたからこそ対応していただけたのだと、本当に感謝と敬意を表したいと思います。その取り組みがあったからこそ、やっぱり8名の方がしっかりと受けることができたということがあると思います。8年間の積極的勧奨が行われなかったというなかで、妊娠がわかって初めて産婦人科に行って子宮頸がんになっていたというそういう方の話もお聞きしたことがあります。やはり本当に嬉しいはずの妊娠が、そういう悲しいというか大変な思いになってしまうということで、子宮頸がんは予防できる病気の一つでもありますので、やっぱりいち早く個別の案内をしていただけたことは本当にありがたいと思います。

また今年度に関しては、10月時点で17名の方が接種されたということで、今回は新型コロナワクチンのほうの接種等もあったので、しっかりと時期をみて個別の通知をしていただいたということもお聞きしておりますので、やはり未来を守ることでありますので、今後も対応していただきたいと思います。あと、先ほど紹介しましたが、青森県の平川市では、独自に6月補正で組んで、19歳の方に個別接種をされたということがありますが、尾花沢市では、今後国に先んじて取り組んでいくお考えはありませんでしょうか。お伺いいたします。

◎議長（青野隆一議員）

健康増進課長。

◎健康増進課長（永沢八重子君）

お答えいたします。子宮頸がんワクチン接種につきましては、来年度から全国一斉に積極的な勧奨が再開されることになっておりまして、ワクチンの供給不足等が懸念されております。そんな中、さらに本市独自にこれまで勧奨されなかった方についても、独自に接種勧奨を行いますと、本来接種対象者となっている方が接種できなくなるということも心配されますので、まずは国のほうで、これまで積極的な勧奨が行われなかった方に対して、公費による接種機会を設けるための議論が開始されたということでもありますので、その結果を待ちまして、国の方針に従いまして市としては対応していきたいと思っております。

◎議長（青野隆一議員）

小関英子議員。

◎5番（小関英子議員）

国のほうでも、令和4年4月から積極的な勧奨をやっていくということで、しっかりと厚生労働省のほうからも通達があったということでもありますので、しっかりと対応していただけるものと思います。HPVワクチンもキャッチアップ事業、要するにそこから今まで8年間の中で漏れてしまった方をどうやってご連絡、周知していくかってことは本当に大事なことだと思います。あくまでも接種するのは任意でありますので、本人の意思でありますけれども、やはりそういうのがわからなくていたということできなかつたということで、公費負担でできなかつたということで、大学生の方などは署名運動とかされている方もいるとお聞きしております。しっかりとキャッチアップができるように、今課長のほうからも、中学1年生から高校1年生までの方で、できない方が出てくる等ということのお声もありましたが、8年間積極的に勧奨がされなかつ

た方々についても、なんとかしっかりと守って手を打っていただきたいと思えますけどもいかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

健康増進課長。

◎健康増進課長(永沢八重子君)

お答えいたします。先ほど申し上げましたとおり、国のほうで積極的な勧奨が行われなかった方に対する対応というところも協議されておりますので、その結果を踏まえた形で、今後市としても対応していきたいと思っておりますので、まずは国の方針を受けまして、それに沿った形で実施していきたいと思っております。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり子宮頸がんワクチンに関しては、当初副反応が大きく取り出されたので、やはりそのイメージを強く持っている方がいるということも事実であります。でも最近では、海外のほうでも、アメリカ・イギリスのほうでも、ずっと研究、またデータが蓄積されていて、その副反応よりも接種しないリスクのほうが高いというデータが出ているということですので、しっかりとその情報なども個別通知の時にはそういう案内もされているかと思えます。尾花沢市で接種した中で、強い副反応の報告とかございますでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

健康増進課長。

◎健康増進課長(永沢八重子君)

これまで接種した中で、本市において強い副反応が出たという報告はいただいておりません。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

強い副反応がないというのは本当にありがたいことだと感謝いたします。副反応というのは本当に、今回新型コロナのワクチンほうでもありますけれど、本当に個々の違うということがありますので、やはり副反応が市民のほうからなかったことは本当に幸いなことだと思います。そして子宮頸がんは、ワクチン接種とそして大事なのが、市長答弁にもあったように、20歳以上の女性の希望者は、一年に一度検診を受けるよということ、尾花沢市ではしっかりと対応されているということをお聞きしましたが、この対象の方に関して、接種率はどれくらいあるでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

健康増進課長。

◎健康増進課長(永沢八重子君)

子宮頸がん検診の受診率でございますが、過去3年間を申し上げますと、平成30年度30.4%、令和元年度29.3%、令和2年度28.7%でございますので、大体30%ぐらいという受診率になっております。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり数字的にはまだまだ少ないかなと思われま。海外のほうでは80%くらいまで検診されているということですので、しっかりとワクチン接種と、そしてまた検診をしっかりしていくということが大事だと思いますので、やはりなかなか20代の方という、検診に行くのが恥ずかしいような感じで思っている方も多いようですので、そういう方たちに、しっかりと検診の必要性を訴えていただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

健康増進課長。

◎健康増進課長(永沢八重子君)

はいお答えいたします。確かに議員が仰るとおり、若い方、とくに20代、30代の方についてはなかなか受診率が上がらないという現状がございます。そんな中でも、なるべく多くの方に受診していただいて、やはり自分の身体は自分で守るんだということ、やっぱり一人ひとりの方に周知していくことが必要なかなと思っております。昨年と今年はちょっとできなかったんですけども、若い方への周知ということで、成人式の際に無料で子宮頸がん検診が受けられますというようなことをチラシでPRもさせていただいております。今後とも若い方にもぜひ子宮頸がん検診を受けていただけるように、PRを図っていきたく思っております。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり子宮頸がんワクチンの接種と、そして本当に大事なのが検診になると思います。私もやはり毎年子宮頸がん、婦人科検診のほうは、人間ドックのほうと一緒に受けさせていただいております。やはり寿命が長くなったからこそ、やはり若い時からの検診が必要だということ強く感じるところです。ですのでぜひ若い方こそ、今課長が言われたように自分の身体は自分で守るというそういう強い意識が大事なかなと思えます。市長の答弁にあったように、乳幼児健診に

来たお母さんたちにも勸奨のチラシを配布されているということで、しっかりとフォローをされているということは大変ありがたいことだと思いますので、今後ともしっかりと未来を守る女性の方たちをしっかりと支援していただけるようによろしくお願ひしたいと思います。

次に、リニューアル補助の活用についてお伺ひいたします。やはりこの制度は、2年間ですけれども、ずっと継続されてこられたということで、やはりコロナ禍だからこそ、自粛中にリニューアルされたということが多いということは、やはり皆さんが先方の方がそれを求めているということだと思いますので、しっかりとフォローしていただきたいと思います。それで、やはり10年、15年って経ってきた時に、やはりまたリニューアルが必要になってきた時に、10年前、15年前1回したからということで、1回限りってなると、できなくなるということにはならないように、なんとか緩和するという考えはないでしょうか。お伺ひいたします。

◎議長(青野隆一議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(間宮康介君)

お答えいたします。この商業化店舗活性化補助金につきましては、市長の答弁にもありましたが、平等性の観点からも、事業はこの同一店舗に1回限りとしていただいております。10年、15年と経って確かに老朽化してくるというようなこともございますでしょうし、その際には、商工会の連携事業なども含めながら、事業者のニーズをきちんと確認しまして、また制度の改正が必要であれば検討してまいりたいと思います。以上でございます。

◎議長(青野隆一議員)

小関英子議員。

◎5番(小関英子議員)

やはり事業継続そして営業の継続のためにも、やはり大事なところだと思いますので、やはりいろんな市民ニーズというのがどんどん変化している時代でありますので、そのニーズに答えていくには、やはり変化に対応できることが必要だと思いますので、ぜひ事業継承した方が、しっかりと事業継承して、そして尾花沢でしっかりと皆さんに利用していただけるようなそういう店舗にさせていただいて、より多くの方が、市外の方からも利用していただけるような尾花沢の商店にさせていただきたいと思いますので、今後とも尾花沢市の商工会のほうとも、しっかりと連携しながら尾花沢

の商業店舗を守っていただきたいと思います。これで私の一般質問を終わらせていただきます。有難うございました。

◎議長(青野隆一議員)

以上で、小関英子議員の質問を打ち切ります。

次に6番 塩原未知子議員の発言を許します。塩原未知子議員。

[6番 塩原未知子 議員 登壇]

◎6番(塩原未知子議員)

おはようございます。12月定例会2日目一言申し上げます。令和3年12月11日、村山本飯田インターチェンジが開通し、途中に設置される2つのインターチェンジも、村山インターチェンジ、村山名取インターチェンジに名称が決まったそうです。来年開通の残りは、東根北インターチェンジまで1区間のみです。山形県内は、米沢から新庄までがつながり、さらに北、金山町までつながります。開通すれば福島県から山形県内を通り秋田県に至り、様々な面で東北のダイナミックな物流・人流・文化の交流に変化が想定されます。経済の活性化が見込まれます。待ち遠しい限りです。ウィズコロナ時代の社会の変革後は、ピンチはチャンス、特徴ある小さな自治体の強みを十分に発揮して、積極的に時流に乗った持続可能なふるさとづくり、関係者一丸となって、尾花沢の進むべき未来をデザインしてほしいと思います。12月定例会は、そんな想いを込めて5つの質問を用意しました。通告にしたがい質問いたします。

まず初めに、徳良湖マスタープラン見直しについてであります。平成22年、ため池百選に認定された徳良湖は、周辺には美田のほか、そば畑やスイカ畑。残したい尾花沢らしい心がほっとする牧歌的風景がたくさんあります。徳良湖は、コロナ禍にあっても若者や子どもたちが安心して集える場所として、今大変好評です。日常様々な場面で市民生活に寄り添い、野鳥や自生の植物も豊かで後世に伝え残したいふるさとの宝を保管する絶好の場所でもあります。そして、花笠音頭、花笠おどり発祥の地、歴史文化の伝承の場、観光やレジャーだけでなく、市民憩いの場、様々な産業のシンボルとなる場所でもあります。築堤100年を迎え、湖畔に新たな花畑の構想もあり、老朽化した公共の施設もハード面のリニューアルもこれから数多く予定されています。当市にとって徳良湖は、銀山温泉や御所山、都市計画マスタープランで示されたダブルネットワークにより、本町への交流人口の流れの要であります。今こそ、農業振興のシンボリックな役割のほか、環境保

全と産業振興の要を示し、市内利用者が減っても市外からの交流人口、観光人口の利用者の拡大で持続可能な維持管理ができるような収益性のあるマスタープランになるよう、早急に見直しが必要であるのではないのでしょうか。平成30年に策定した基本プランは、徳良湖周辺の管理委託を、現在はふるさと振興公社に委託する形になっていますが、今後の市内人口減少に耐えうる持続可能なプランになっていないと私は感じています。いかがでしょうか。

次の質問です。尾花沢市のブランド米、雪きらりと米の消費喚起についてお尋ねします。昭和10年頃だそうですねけれども、尾花沢市から御料米が出荷されたと聞きました。現在、農の匠たちが残した美田と、厳しい環境の中で良質な米作りの技が今に伝えられている尾花沢です。そして、昭和の時代に、米の試験田があった跡地に尾花沢の新庁舎も建っております。今、米価下落、コロナ禍で加速する米余りのなか、これからの当市の米政策、尾花沢ブランド米戦略をどう進めていくのかお尋ねします。

3番目の質問です。最上紅花と尾花沢市の関わりについてお尋ねします。今年、紅花大尽鈴木清風没後300年の記念すべき年です。地名に花の名前がつく当市は、俳聖松尾芭蕉が10泊の長逗留をして、二巻の歌仙と、「まゆはきを俤にして紅の花」の句を残した芭蕉ゆかりの地でもあります。かつてその想いを込めて、6次産業化を目指して、紅花を商品化するために行政と農協で農産加工研究を行い、上の畑焼の紅ちよこを作ったとお聞きしました。そして徳良湖畔で、紅花の栽培を行っていたということもお聞きしております。当時の研究資料は残っていますでしょうか。山形県では今、最上紅花で世界農業遺産を目指しています。尾花沢市では、尾花沢スイカを利用したスイカエキスなど様々な加工品にチャレンジしてきました。スイカの化粧水の他、紅の研究を行ってはどうでしょうか。6次産業商品化に伴い、様々な実験を尾花沢市は今までも行ってきたところですが。その実験結果、その資料などはどこに行ったのでしょうか。かつて行った最上紅花にこだわった紅に対しても、もっとしっかりと研究を続けていくべきではないのでしょうか。企業と連携したR&D研究開発を民間事業者とともにを行い、最上紅花にもっとこだわって、地域活性化を図ってはどうでしょうか、お尋ねします。

4つ目の質問です。御所山県立自然公園についてお尋ねします。徳良湖は築堤50周年の記念の年に、御所山県立自然公園の飛び地として認定されたようです。

今年、御所山の水もようやく湖に注がれました。徳良湖築堤100周年記念事業も延期になり、1年遅れの開催が良い繋がり連鎖を生むような気がします。山岳信仰、湖畔の新たなアクティビティ活性化など持続可能な水環境や環境保全を強調する絶好の機会と捉えております。2022年来年は、全国山の日の主会場が山形県で開催される予定です。当市の取り組みなどどうお考えなのかお尋ねします。

最後の質問です。新築を考える世代に魅力的な住居居住空間無雪化計画の推進をお尋ねします。都市計画マスタープランも今年度中策定の予定だそうです。空き家、空き地、老朽化した公共施設、地域の公民館、電線地中化の実現なども併わせ、歴史の道を活かした本町中心部の街並みの再構築、そんな話し合いこそ今急務ではないのでしょうか。今年宣言だけで全貌が見えない尾花沢市ゼロカーボン宣言の第一に、地中熱、地熱の研究を復活させ、夏涼しく冬暖かい住まいの実現と本市一番の課題である、雪に困らない住まいを可能とするまちづくりを進め、新築を考える世代に魅力的な居住空間無雪化計画の推進を実現し、時節に乗って雪があるから楽しい尾花沢暮らしが実現できるまちづくりを進めるべきだと考えます。山形新聞の記事によれば、昭和の時代に、市内で地熱の研究を行ったようですが、当時の資料などは残されていますでしょうか。資料の保管状況もお尋ねいたします。以上、私の質問席からの質問はこれで終わりますが、必要に応じて自席からの再質問をお許しください。市民にわかりやすい誠意あるご答弁どうぞよろしく願いいたします。

◎議長（青野隆一議員）

市長。

〔市長 菅根光雄 君 登壇〕

◎市長（菅根光雄君）

ただ今、塩原議員から大きく5点についてご質問賜りました。順次お答えしてまいります。

はじめに徳良湖マスタープランの見直しについてお答えします。

約7万人という大勢の人々の力により大正10年に完成した徳良湖は、この100年の間、本市の基幹産業である農業を支えてきました。そして、現在では、清らかな湖面と豊かで静かな松林、遊歩道の桜並木、周辺の穏やかな丘陵地などの美しい景色を求めて県内外から人々が集う、「憩いの場」となっています。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。密を避けながら豊かな自然環境に触れることができる屋外レ

ジャーへの需要の高まりを背景に、徳良湖オートキャンプ場やモジュラーパンプトラックが人気を集め、徳良湖周辺には新たな賑わいが生まれていることから、徳良湖は市民の皆様だけでなく、市外の方からも、あらゆる年代の多様な方々から愛される場所になっており、またそれが調和している、他に類を見ない唯一無二の徳良湖の魅力になっていると感じています。

今年度にスタートした第7次尾花沢市総合振興計画では、重点プロジェクトの1番目に「ふるさと一番！定住促進プロジェクト」を掲げていますが、プロジェクトの柱である「暮らしやすさの創造」につながる施策として「徳良湖の魅力創出」を位置付けております。将来像である「このまちでともに生きる しあわせな時を刻むまち」の実現のためには、徳良湖が市内外の多くの方々から愛され、これまで以上に親しまれるような癒しや賑わいの空間になるよう、整備していかねばならないと考えております。

「徳良湖周辺整備マスタープラン」は、既存施設の特徴や利用形態を考慮し、徳良湖周辺エリアを4つのゾーンに、整備時期を「早期」「中期」「長期」の3段階に区分し、計画的に整備していくことにしています。今般、「早期」の3年間が経過したことから、整備の実績に基づいて内容を整理するとともに、「親水公園」と「基幹集落センター多目的ホールへの屋内遊具整備」を整備時期の「中期」に位置付けるため、本プランを一部改訂しております。また、社会全体が急速にデジタル化していることを踏まえ、「通信環境の整備」を一部改訂に盛り込み、徳良湖周辺のWi-Fi利用可能エリアを拡大することにしています。

本プランは、徳良湖周辺の整備の基本的な方向性が示されているものです。そのため、具体的な整備内容やその手法については、この方向性を踏まえた上で、時代の変化や市民ニーズの多様化に対応できるよう検討し、緊急度と優先度を勘案しながら計画的に整備していくことで、徳良湖の築堤に携わった先人たちの思いを受け継ぎながら、美しい風景と歴史を未来に伝えていきたいと考えております。

次に、「雪きらり」のブランディングについてですが、雪きらり研究会では、試食を重ね、「冷めてもおいしい」をキャッチフレーズとして、お弁当やおにぎりに最適なお米であること、また、外食産業向けには「粒立ちが崩れない」ことから「寿司」に合うお米として啓蒙してきました。また、栽培土壌の成分検査を行いながら、良食味を目指す研究を重ねています。一般的な評価を得るため毎年品評会に出品し、昨年は高

得点を得た生産者が米・食味鑑定士協会のプレミアムライセンスクラブ認定証を得ることが出来ました。さらに検証事業として、市内イベントと新米の時期に消費地に赴き、試食を通じ消費者の生のお声をお聞きして事業推進に役立ててきました。

また、生産者向けには、寒さに強いこと、倒れにくいこと、カメムシ防除回数を軽減できること等の品種特性を周知するとともに、毎年、作付け者を対象とした現地栽培研修を行い、営農指導と栽培暦の順守を呼びかけてきました。

以上の取り組みを継続してきたところ、毎年、市内作付面積が拡大し、年間とおして流通できる数量の確保まで、もう少しと感じています。

雪きらり研究会では、引き続き知名度の向上を目指す各種事業と、作付け拡大を図る事業に加え、付加価値を得るための取り組みについて研究を進める考えです。

「最上紅花」と尾花沢の関りについてですが、まず、「上の畑焼の紅ちよこ」に関する当時の資料は、残念ながら残っておりませんでした。

次に、尾花沢での紅花栽培と商品開発についてですが、紅花は本市の気候にあった作物であるか、土壌は栽培に適しているのか、栽培を手掛ける農家は誰なのか、商品開発を支える企業の選定など検討すべき課題があり、必要に応じ紅花の日本農業遺産の認定地域である白鷹町、河北町、中山町等と連携しながら、検討していかねばならないと考えています。

また、民間企業を巻き込んだ研究開発についてですが、現在、世界農業遺産への登録を目指している「歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」の概要には、紅花生産の最盛期であった江戸時代には、紅花を加工し染色用素材に加工した「紅餅」が、北前船で京都まで輸送され、伝統的な神事の装束などに用いられており、紅花から「紅餅」に加工する技術は日本唯一であると記載されています。

議員からは、「紅」の商品開発について提案いただきましたが、「紅餅」とは違い、紅花から作る「紅」は、長年の経験を有する職人の手により、いくつもの工程を経てようやく玉虫色の「紅」が完成します。「紅」を作り上げる技術を持つ職人は、日本に数人しかいないため、本市で商品化を目指すことは大変難しいと認識しております。

しかし、新たな特産品を開発することは、本市農業の活性化につながる有意義な取り組みであると思いますので、関係機関と情報交換を行いながら、農業所得

向上に繋がるよう、調査研究をしてまいります。

次に、「全国山の日」の本市の取組みについてですが、令和4年8月に開催される第6回「山の日」全国大会山形大会は、山形市と上山市を主会場として開催され、記念登山や記念式典、歓迎レセプションなどが実施される予定です。

県内市町村には、県の実行委員会より、「山の日」展示リレーの協力依頼が来ており、本市も取り組む予定です。「山を想い、山を愛し、山と生きる。」という大会テーマのとおり、本市の山への親しみ、山を思う心を今一度振り返る良い機会になるのではないかと考えます。

本市の取組みについてですが、4月28日から5月17日までの20日間、市役所ロビーで「山の日」展示リレーを開催するほか、本市で「やまがた百名山」に登録されている御所山、ニッ森、翁山、御堂森、大平山の5つの山の取組みを紹介する「やまがた百名山写真展」を同時開催する予定です。

また、春から夏にかけて各地区で開催される山開き等の登山については、大会記念登山とすることや、御所山の新荒神コースが開通し、山頂まで通行が可能となったことを受けたお披露目登山の実施など、関係団体等とも調整してまいります。

なお、山の日にちなんだ徳良湖でのイベントの実施についてですが、山の日のもとの本来の目的は、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝することです。つまり、人々が共に暮らしてきた山や森林の恵みに対し、感謝の気持ちを持つ日ですので、徳良湖でイベントを実施する計画はありません。

次に、地熱調査についてお答えします。尾花沢市内における地熱調査については、昭和63年度から3年間をかけて「新エネルギー総合開発機構（NEDO）」が行っております。尾花沢東部地区として銀山地区をほぼ中心として、行沢、母袋、栗生、寺町、鶴子地区等、奥羽山系の面積65km²の範囲を調査しております。調査内容としては、地質や環境影響調査、熱量調査等を実施し、地表下2,000m以内に200℃以上の高温部が存在する可能性は非常に低いという結果が出ております。しかし、調査範囲が尾花沢東部地区ということで、本町地区で、当時このような地熱調査は実施されておられません。

また、居住空間無雪化計画の推進についてですが、本市では、若い世代の定住を促す施策のひとつとして新築住宅等の取得に対して支援しております。第8次尾花沢市ふるさと暮らし応援事業では子育て世帯への

支援を拡充し、現行では最大200万円を助成するなど手厚く支援するとともに、住宅の雪対策への支援として、融雪装置等に対し最大100万円を助成しています。

個々の住宅への支援による地元への定着を更に確実なものにするためには、居住空間の無雪化を推進することが不可欠であり、現在策定している第2次都市計画マスタープランの全体構想案において「再生エネルギーを活用した無雪化ゾーンの整備」を位置付け、積雪による負担感のない居住空間の実現に向けた取組を推進することとしています。

平成27年度に尾花沢市居住空間無雪化プロジェクト会議が制作した「居住空間無雪化ガイドブック」では、電気や灯油ボイラー、地中熱などを利用した融雪方法も記載されていますが、道路や歩道などを含む生活空間を無雪化する先進事例としては、木質バイオマス燃料をボイラーで燃やし、そのエネルギーを活用する方法が一般的のようです。無雪化ゾーン実現の最大の課題は、本市にとってどんな熱源が有効なのかを選定することですので、融雪に要する費用対効果や環境負荷について調査し研究していく考えです。

また居住空間の無雪化を実現するには「屋根雪の処理」がポイントだと考えます。高齢化が進む本市では、屋根の雪下ろしは重労働かつ危険な作業であり、また屋根から落ちた雪の処理は除雪機でも苦慮しているのが実情です。そのため雪下ろしが不要な耐雪型住宅や、屋根の上で安全に作業ができる平らな低層住宅など、新たな発想を取り入れた「未来定住型住宅エリア」を構築し、若者を誘導することで街並みの再構築につなげていきます。

居住空間の無雪化を実現するには雪を溶かす無雪化の他、流雪溝への投雪作業の負担を軽減する無雪化も重要と考えますので、実現するためには大学や研究機関の他、現場での実績を有する山形県建築士事務所協会等とも連携し進めていく考えです。以上、答弁とさせていただきます。

◎議長（青野隆一議員）

塩原未知子議員。

◎6番（塩原未知子議員）

それでは再質問させていただきます。2日目ですので重複する質問は避けたいと思いますので、できるだけ簡潔にお答えいただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

最初に、徳良湖マスタープラン見直しについてでありますけれども、先ほど市長のほうから、いろいろなこれからのポイントとして、親水公園や多目的ホール

の屋内遊具の設置などを考えて、中期的プランということで、これから進むのかなということをお聞きしました。またWi-Fiを利用することということで、今拡大をきちんとこれからしていくということですので、本当に早くに実現すればいいなと思っておるところです。

再質問のほうは、そこら辺も踏まえまして、徳良湖を利用する方が、今市内の利用者よりは、県外も含め市外のお客様のほうが多いのではないかなと思っていると、そのあたりはどうでしょうか。利用者の対象としての、これからの割合ということでお答えいただけませんかでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(間宮康介君)

お答えいたします。塩原議員仰せのとおり、市外からの観光客の流入はかなり多くなっていると思います。パンプトラックも今年設置しましたし、サンビレッジ徳良湖オートキャンプ場についても利用者が増加しているところでございます。あの市民の憩いの場としても、徳良湖周辺の遊歩道などかなりの利用もございまして、ただし、県外からのお客様は増加しているとみております。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

私が見直しすべきところはそこなのかなと思っていると、今までは、市民に対しての憩いの場という言葉がまず冒頭にきていたと思いますけれども、最近、特にコロナ禍にあってもかもしれないんですけども、利用者の数が、やはり市内の方よりは倍以上市外の方が増えているのかなと思います。そのために維持経費に関しまして、もきちんと収益性が見込めるような事業こそ組み込んでいくべきだと思いますけれども、なかなか市民憩いの場と言いますと、さまざまなウォーキングなり、あとは温泉もあるとは思いますが、キャンプ場も含めてそうなんですけれども、今増える部分というのは、市外のお客様が利用なさるという目的が明確になっているところが極端に増えていて、今まで基幹集落センターもしくは青年センターのほうは、なかなか市内の方の利用も少なくなっていて、以前は太鼓の練習やら、いろいろな活動に私たちの子どもたちの活動の場としても使っておりましたけれども、そのあたりの利用がぐっと減っているということで、これから見直しが見られるということなんですけれども、

その辺り、もう少し収益性があるような維持管理も含めまして考えていくようなお考えはございませんでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(間宮康介君)

お答えいたします。基幹集落センターにつきましては、先ほど市長答弁にもありましたとおり、多目的ホールの屋内遊具整備ということもございまして、徳良湖自然研修センターにつきましては、昨日の星川議員への答弁にもございましたとおり、テレワークというスタイルを活用したワーケーションというジャンル、新しいそういう取り込みなども含めて考えていけないかということで、考えているところでございます。収益性をあげるということは当然必要なことでありまして、今オートキャンプ場ですとか、やはりパンプトラックについても、ある程度収益を上げながらやっていると、レストラン徳良湖ですとか、その他収益性も上がる事業も幅広く力を入れていければ良いかなと思っております。以上でございます。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

そのように目的のほうを明確にしまして、徳良湖全体で、もっといろんな方々が関わって、更には仕事として生業として続けていかれるような形にしていてもらいたいと思っております。本当に、いろんな方がいろんな目的をもって徳良湖に集まると、本当に歩くだけの方の健康維持ということとか、本当ほっとしたいからちょっと寄る方もいらっしゃるんですけども、そのために必要な最低限の駐車場、トイレは、早期にきちんとするというのでしたので、そちらのほうはだいぶ進んできてはいると思うんですけども、こと大きな建物に関しては、これからリニューアルですので、よく管理する、あとは収益性も考えて、市内の方が減ったとしても、その収益が減らないような工夫も必要なのかなと思います。全体の事なので、またあのしっかりと尾花沢の本町、あと銀山、さまざまな地区からの流れも含めて徳良湖を利用できるような形にしていただきたいと思います。そこで、私は要となるものは何かということで、ご質問したところなんですけれども、そのような掛け声のもとにこれから向かっていくということはお考えないでしょうか。市長どうですか。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

今後の徳良湖のあり方という形になっていくと思いますけれどね、根本的に私も尾花沢で生活してきて、徳良湖そのものは、私は市民の憩いの場であってほしいと、第一番目にこれが一番です。市民が楽しむことに、そこにいろんな方々が尾花沢って良いね、徳良湖良いよねと言って来ていただく、そこが大事なんだろうと思います。徳良湖をどんなふうな形にしていくかいろいろ計画があるわけですが、もちろん収益を上げるってことも必要なかもしれません。お隣の加美町のやくらいにおいても、やくらいガーデンは有料にして取っております。でも、あれだけの規模の花畑であれば、有料という部分も考えられるかもしれません。でも現在の今の状況の中で花畑を作っていくって、それで有料にするだけのものは果たして出来上がるのかなというちょっと不安もあります。ただ良い花を皆さんに見ていただいて、それを育成するための協力を求めて行くことは可能なんじゃないだろうか、お出でになっていただくみなさんに、できればそういう形で協力をお願いしますと、求めていくことも必要であろうと思いますし、良い物を長く続けるには、それなりのお力添えをお願いしたいというふうになると思います。もちろん、基幹集落センターのほうに、これから修復しまして、新しい子どもたちの遊ぶ場を考えていくという形になるんだろうと思いますけれど、そこに有料化というのもあまり主張していきたくはないと。やはり尾花沢の子どもたちは、あそこで思う存分遊んでいただけるように、そして徳良湖においでになる市外からの方々、市内の方々も徳良湖に来たら朝から晩まで遊べると、そんな夢のある徳良湖にしていきたいなと思っています。天気の良い時は、野外の遊具を使って遊んでいただき、そしてもちろん遊具も充実させなきゃならないと思います。雨が降った時には、基幹集落センターの中で存分に遊んでいただくというふうな形で、子どもたちにも遊ぶ選択をさせてあげたいと。そして、その上で親水公園が出来上がってくれば、水辺で遊ぶっていうことも行われるであろう。そして、水のありがたさも知ってほしいなというふうに思っているところで、今後いろんな方々からいろんなご提言いただくとしますので、その都度市としても考えて、まずは市民のために何をすべきか、そしてそのあとに市内からおいでになる皆さんにも色んな意味でご協力を求めていくということもあると思います。お願いし

ます。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

100年続く徳良湖であるように、しっかりとそのあたりも含めまして、考えていただければと思います。

では次の質問に移ります。雪きらりに関しまして、雪きらりというだけでなく、尾花沢市の米ということも含まれるかと思いますが、今回は雪きらりに関してだけお尋ねいたします。

雪の名前を冠したブランドに関して、雪山ぶどうとかさまざまあると思います。この雪きらりに関しまして、このパンフレットに多分全て最初の頃の思いがしっかりと書いてあります。雪きらりは、量よりも質にこだわった米と言えます。綺麗な雪解けの水、厳しい気候にも耐える手間暇をかけた栽培ということで、量よりも質ということが明確に謳われて、さらには中山間地ということで、棚田をイメージして文章が書かれています。この中で非常に思ったんですけれども、やはり先ほど、冷めても美味しいということで、寿司とかあとはおにぎりということがあったと思います。この美味しさと良さをもっと引き出すようなプランニングをすべきだったのではないかと私は思うんですけれども、たとえばおにぎりを販売するところに積極的に売りに行ったこととかはあるんでしょうか。お聞きします。

◎議長(青野隆一議員)

農林課長。

◎農林課長(岸栄樹君)

雪きらりのプランニングの今までの進め方についてですけれども、市長答弁にありましており、まずは立ち上げが中山間地域に適した米の研究ということで、そこからのスタートでございました。途中から、やはり山形95号試食を重ねまして、中山間にあったお米であるということで、そこからまず栽培の定着に向けた栽培暦も県のほうからは提示もあつたわけなんですけれども、それをさらに尾花沢独自の栽培暦に改修すべく、今日まで調査研究を行いながら、その良食味を追求したその活動のもとに、消費地などに赴きまして、実際には試食なども挟めさせていただきました。大変あの食べていただいて、大好評でございました。今現在も雪きらりかなり栽培面積増えましたけれども、ご家庭で消費される農家の方は非常に多いというふうにも聞いております。まずは消費地に赴きまして、年間流通できる確保はなかなか今確保できていない状況

ではありましたが、板橋区のハッピーロード大山商店街の故郷のアンテナショップなどに常設置させていただきながら、その近隣住民に日常的に飯米としてご試食いただけるような取り組みは継続してきたつもりでございます。以上でございます。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

今話を聞きますと、やはり本当に食べたい人のところに届いていないんじゃないかなというふうに思います。なぜかと言いますと、いろんな試食とか、いただいて食べるものでなくて、やはりお金を出して、やっぱり雪きりが良いよねって言って買えるところこそ欲しいなと思います。道の駅ねまるで、買えるかなと思って行ったところ、95号という名前では売ってありません。どこで買えるんだろうということで、私も市内で探してみました。私の手だてでは買える所はございませんでした。インターネットで調べました。雪きりとして一生懸命調べました。ふるさと納税はありました。ですがお米を買いたって言った時に、お店も出てこなかったです。それがやっぱり今回のなかなか厳しい状況っていうのに出てきているのかなと思います。ですので、しっかりとブランディングこれ商標登録取っております。尾花沢スイカは商標登録してませんけれども、雪きりは商標を取っております。しかもこのマークも取っております。これはもっともっと使うべきだと私は思いますけれども、その辺りきちんと考えていただきたいと思います。先の1日目の答弁の中にもさまざまありましたので、これ以上の再質問をいたしませんけれども、本当にブランディングは何か、どこに届くべきかをしっかりと皆様が一丸となってやらなければいけないのかなと思っております。以上です。

次の質問に移ります。最上紅花と尾花沢の関わりについてでありますけれども、紅花栽培地というと山形県、山形の代表とする本当にシンボルとなる県の花であります。実は父が30年前から紅花を栽培してたので、それを引き継ぎまして、ここ5、6年は自分も聴きながらやっと紅花を作る、少しはできるようになったかなって自分の思うようになりました。この5年いろいろ失敗もありましたけれども、でも尾花沢でできないことはないです。しかし土壌がやっぱり他の地域よりも尾花沢の場合は不利だっていうのも分かっております。それだからこそ余計に思うんですけれども、今回紅花大尽と言われる鈴木清風さん没後30年、今ま

で、鈴木清風さんというのは身近にはないですけども、市内で一番著名人だと思っておりました。その方の、いろんな昔の活動とかっていうことは、芭蕉さんの俳句で知ったっていうくらいなんですけれども。その後さまざまな資料で、紅花の商いのことを県内取り上げているものがありまして、冒頭とにかく紅花を山形に見に行くといった時に、出てきたのがおくのほそ道で、どこに咲いているのかっていうこと20年前に書かれた本なんですけれども、徳良湖に紅花の畑があったと、写真が載っております、徳良湖の近くで紅花を栽培している人というタイトルで、徳良湖のほうのいわれを綴っております。これはすごいことだと思います。それで、栽培をどうのということでもなく、これから県では世界遺産を目指してさまざまな紅花に関わるいろいろなことをやってくと思います。それにぜひ乗っていただきたいと思いますけれども、なぜかと言うと芭蕉が詠んだ「まゆはきを佛にして紅粉の花」これ素晴らしい宣伝、300年前によくぞ本当に尾花沢に来て下さいましたと思っております。その点、文化の面から、農業ということではなくて、文化の面から尾花沢ゆかりの地をアピールするようなお考えで再質問したいと思っております。そのような思いありませんでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

社会教育課長。

◎社会教育課長(鈴木敏君)

鈴木清風に対しての取り組みと言いますか企画ということですが、先ほど小関議員の答弁にもあったんですけども、今年度、没後300年ということで特別展のほうを企画して実施しております。やはりあの松尾芭蕉が尾花沢に来たというのは、鈴木清風がいたからこそ、かなり親密な関係であったからこそ、10泊という長い間いたということもありますので、もう一度清風さんのほうに光が当たるような企画のほうを考えていきたいというふうに思っているところです。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

ぜひそのように資料館の前のランターに毎年確か紅花を植えていると思います。それはおもてなしで、皆さんが来た時に、これが紅花なんですねっていうことが、本当にそのプランターの一輪、二輪の中からも感じられて俳句を詠まれるというような尾花沢であってほしいなと私は思っております。最上紅花、さまざまな商いで紅花大尽と呼ばれたのは鈴木清風さんだと

思います。他の方で紅花大尽という名前で残っている方はいらっしゃらなかったと思いますので、ぜひこれを大切に、できればあの俳句がもっともっと盛んな尾花沢になってほしいなという想いもあります。ですので、このあたりしっかりとこれからの本町のまちづくりに活かしていただきたいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

次に4番目の質問の県立自然公園御所山に関しまして、先ほどご答弁の中で、さまざま展示っていか写真展ですねきっと、それを開催するという事をお聞きしましたので、ぜひあのやっていたいて、さまざま山に行くとな非常に本当に癒されます。あの目の前にない遠くを仰いでいる山でありますけれども、一度その魅力にとりつかれますと、かなりいろいろなところで助けになります。心が本当に折れそうになった時、登山踏みしめて、いろいろな思いが少しずつ軽くなっていく、本当に登山の頂上に行った時には、辛さも忘れて本当に元気になるという不思議な感覚。本当にいろんな意味、この山の日を契機に、里山のそれぞれの五つの山を大事にして、山形百名山のことも含めて広く市民に周知していただきたいと思っております。先ほど最後の答弁のほうには、新ルートということがございましたけれども、そのあたりどうでしょうか。もう少し詳しく新ルートの事をお聞きしたいと思います。

◎議長(青野隆一議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(間宮康介君)

お答えいたします。御所山の新荒神ルートということですが、現在御所山には荒神ルート、あとはクラビルルート、あと層雲峡ルートというような形で三つの登山ルートがございます。ただそれぞれに、特に荒神ルートについては、崩落により登山道が駄目になっている部分がございますので、そちら新荒神ルートということで、尾花沢山の会さんにご協力をいただきながら、新たな登山ルートを整備していったらどうかということで、数年かけて準備してきたものでございます。こちらが、コースがある程度完成しまして、これから森林管理署さんに登山ルートの借用申請等を行いながらという段取りでございまして、山の日に関に合わせるような形で申請を行い、許可をいただきながら、お披露目登山などができればいいなということで調整しているところでございます。以上でございます。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

新荒神コース本当に楽しみです。実は私荒神コース通ったことがございません。クラブコース専門で、ゆっくり登るコースだったので、そちらのほうばかり行ってましたので、荒神コース本当に楽しみにしておりますので、ぜひ間に合うように、来年の山の日イベントとともに、いろいろなことを進めていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

なお、先ほど私は徳良湖のほうに御所山の水が通ったということも含めまして、ぜひ連携してはということをご提案いたしました。なぜかと言いますと、水は本当に、空から降るんですけれども、山からいただいている恵みが尾花沢の田畑、さらにはいろいろな自然にも影響しているってことを非常に感じますので、そういう気持ちをきちんと醸成するってことも大事なかなと思います。徳良湖の真ん中の中洲の所に碑があります。石の碑なんですけれども、それにたくさんの方々が協力をして、50周年県立自然公園御所山の石碑を残しております。何かやはりあそこに立ちますと50周年で、次の50年にかけて思いが伝わってくるように非常に感じます。夕日の時にあの一角から見る湖面が非常に私は大好きでありますので、先人の思いを次につなげるためにも、ぜひ何か、イベントとしてではなくても、そこで何か演奏するなり、俳句を詠むなり、多分そういう、それぞれの好きなことを実現するような徳良湖であってほしいなと思います。何か連携することというのがないと先ほどお答えでしたけれども、考えられることはございませんでしょうか。お答えください。

◎議長(青野隆一議員)

総合政策課長。

◎総合政策課長(永沢晃君)

山の日との連携ということではないですけれども、先ほど何点か仰られた点と、ちょっと私のほうで考えていることが同じことありますので、話させていただければと思っております。まず徳良湖につきましては、100年前ここに住む先人たちが湖を作るという、何十億という大事業にチャレンジしまして、意味を成し遂げております。そんな中で、60kgの石を持ち上げて土を搗き固めるということで、これ過酷な作業だったそうです。その中で拍子をとめるための唄としては、土搗き唄というのが唄われております。ただ、真面目な歌詞だけでは、どうしても窮屈でくたびれて仕方ないということで、自然にこう笑えるような歌詞も大変多

くあったと思います。そういう郷土を良くしたいというふうな先人たちの思いを未来に伝承するためにはということで、土搗き唄をコンテンツとして残せるような取り組みを、県内のシンガーソングライターの方と連携し今実施しております。本来ならば、何か発表する場という話あったんですけども、100周年のコンサートで発表する予定だったんですけども、今回できなくなってしまったので、来年またその場を作ろうかなというふうに思っております。もう一つ紹介させていただくと、あの国内の財団の支援を活用しながら、今現在徳良湖の築堤の物語を100ページの本にできないかということで、漫画の本の制作を教育委員会と主体となって取り組もうとしております。ただ、あの今回申請して該当すれば来年の事業で取り組めるというふうになるんですけども、読み応えがあって面白い本ができれば、これ子どもたちにも読んでもらえるんだというふうに思っております。やっぱり、徳良湖というのは、先ほど市外から来るお客さんが多いというふうな話もあったんですけども、これほど市民に愛されている場所が他市町村ではないと思います。ですので、目に見えるハードの部分の整備だけでなく、ちょっと語呂合わせでハートの事業を、こういうふうな形で、今後とも進めていければ、そういう発表の場を、また徳良湖の場所を活用しながらできればというふうに思っていますので、よろしくお願ひします。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

そうですね。本当に徳良湖はみんなに愛されている、市民に愛されている場所ですので、次に繋がる素敵な事がたくさん起こる場所でもあってほしいと思います。今年確か雪のラブレッターも20周年だったと思います。先ほどまあいろいろな歌とかっていうことがありましたけれども、雪のラブレッターもなかなか20周年となるとかなりの量の歌ストーリーですかね、物語があると思います。そのような事業もあると思うんですけど、何か関連とかできないでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

商工観光課長。

◎商工観光課長(間宮康介君)

お答えいたします。雪のラブレッターにつきましては、仰るとおり20周年ということで、今回記念誌なども発行しながらと思っております。徳良湖のこの築堤50年の際の際の自然公園、あとこれから100年事業にも向け

たというような関連性というのは特段設けてございませんでしたけれども、少し何かでも関われば良いかなと思いますので、ちょっと検討していきたいと思ひます。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

今までやってきた20年も含めまして、20年っていうと二十歳、子どもがもし生まれたのであれば二十歳になるということであれば、そこからまたさらに別な展開もあると思ひます。徳良湖は最近、LEDの照明でハートのマークを設置しているところが2箇所3箇所位ありまして、結構好評でみなさん写真を撮って行かれているようですので、何かそこに拘るってのも一つの手なのかもしれないと思ひます。ぜひ雪のラブレッター、私も本当に思い入れが深くありますので、さまざまな想いを込めて全国から尾花沢に投稿なさった方、あとストーリーを短歌を寄せてくれた方、さまざまな想ひも含めまして、この皆さんが集える徳良湖であってほしいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

次の最後の質問なんですけれども、新築を考える世代に魅力的な居住空間無雪化計画をっていうことで、これ居住空間無雪化計画っていう名前がずっと前からあの尾花沢の命題でありまして、各地区でそれを実現している部分がさまざまあるかと思ひます。特に、本町の中では、この庁舎もちろん無雪化計画の中で雪庇がないような造りとか、地中熱を利用した屋根の融雪みたいなこともやっているかと思ひますが、なかなか見えづらいとか見えにくいとか、分かりにくいと思ひます。やはり、自分の住まいに対してっていうふうに降ろしていただかないと、実験結果でなく、実際自分がこれから新しい新築をする時、リフォームする時に、どんな形で無雪化になるんだっていうのが具体的にわからないと、やはり皆さんイメージができなくて、結果的には雪のないところに移り住もうということに繋がっていつてんじゃないかと私は思ひます。とにかく尾花沢に来て、雪が楽しいから来たんだ、そして雪も気にならない住まいとなれば非常に強いと思ひます。雪に困らない住まい、これに関してさまざまな実験さまざまな事例があると思ひますけれども、今現在尾花沢でこの無雪化計画に対して、今までの実験で一番誇れるものというのは何でありましょか。ご質問します。

◎議長(青野隆一議員)

環境エネルギー課長。

◎環境エネルギー課長(本間孝一君)

再生可能エネルギーの観点から申し上げますと、地中熱を活用したものであるということで、市役所庁舎それからサルナートの遊歩道などを行っております。また、県内の民間事業者の中でも、地中熱を利用した融雪に取り組んでいる業者さんもいらっしゃいます。誇れるといえますか、地中熱を活用したところが、今現在その2箇所だけあります。今後なんですけれども、高気密住宅による省エネルギー対策、それから地中熱を含めたさまざまな再生可能エネルギーなどを組み合わせる事によって実現できるのかなと思っておりますので、その辺関係機関とも調査してまいりたいと考えております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

今、一番注目なのは地中熱だと思っております。冷房と暖房のコストを削減するためには、やはり一番あの地中熱利用が良いと言われております。さまざまな電力を補う再生可能エネルギーもあるのでけれども、この地中熱に関しまして、さらには尾花沢の中で、先ほどNEDOの調査では、東のエリアということなんですけれども、本町のほうはやっていないということでした。しかし消防署が建っている辺りで、かつて温泉がありました。私本当にご近所なのでよく覚えているんですけれども、そこから消雪の水を引きまして、でも温度が高いので、水で割ってさらに薄めてって言ったら変ですけど温度下げて出したんですけど、それでも温度が高くて湯気がもうもうするので、途中もう老朽化したのでってということで、今はないんですけども、あそこにかつて温泉がありました。そのような形で、何でしょう、もっともっと未利用な再生可能エネルギー、特に地熱に関しましては本町こそきちんと調べて欲しいなと思っておりますので、そのようなお考えはございませんか。

◎議長(青野隆一議員)

環境エネルギー課長。

◎環境エネルギー課長(本間孝一君)

地中熱に関してでありますけれども、昭和60年時代の調査というのは東側のほうということで、本町地区は行われていないようであります。ただ塩原議員仰るとおり、消防署付近でも温かいお湯が出るかもしれないということはありますので、その辺もちょっと調査はしていきたいと思っております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

今年、尾花沢市ゼロカーボン宣言を出された当市のこれから雪に困らない居住空間無雪化計画をなさっていただきたいと思っております。先ほど答弁の中では、これから都市計画マスタープランの中で、無雪化ゾーンということで、どこかエリアを区切って多分集中的にやられるんだと思っております。この辺りも含めまして、各地区の連携、いろんなところのエネルギーもあると思っております。けれども、本町こそ空き家、空き地がだいぶ多くなりました。ですので、このようなゼロカーボン宣言に則った形で、都市計画マスタープランを考えていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。建設課長。

◎議長(青野隆一議員)

建設課長。

◎建設課長(齊藤孝行君)

お答えいたします。塩原議員の今の質問は、都市計画マスタープランにおいて無雪化ゾーンの整備はということかと思っております。先ほど市長の答弁の中にも、今回の都市計画マスタープランの中に、やはり人口減少ですとか、定住あるいは空き地、空き家の課題がさまざまあります。それを解決するために、やはり都市計画マスタープランの中でですね、全体構想案としまして、再生エネルギーを活用した無雪化ゾーンの整備ということで位置づけしておりますので、今年度策定に向けた取り組みをしているところであります。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

塩原未知子議員。

◎6番(塩原未知子議員)

これで私の一般質問終わります。

◎議長(青野隆一議員)

以上で、塩原未知子議員の質問を打ち切ります。ここで昼食のため午後1時まで休憩いたします

休憩 午後0時02分

再開 午後1時00分

◎議長(青野隆一議員)

再開します。次に、9番 鈴木清議員の発言を許します。鈴木清議員。

[9番 鈴木清 議員 登壇]

◎9番(鈴木清議員)

通告にしたがい一般質問させていただきます。私の質問は大きく4つであります。

1つ目は特別養護老人ホームの入所待機者をどう解消するかという点です。

①特別養護老人ホームの入所待機者がいることをどう捉えていますか。また実態はどのようになっていますか。

②県指定による施設のため、入所申し込みのあとは、あくまで施設対応になると思われるが、待機者が安心して順番を待てるように、市としては、どのような関わりを考えていらっしゃいますか。

大きい2番です。原油価格高騰下の福祉灯油についてお尋ねします。

①福祉灯油助成事業は、県の要綱で低所得世帯（住民税非課税世帯）に県が2分の1、市町村が2分の1、一世帯5,000円と決まっていますが、原油価格の高騰と長びくコロナ禍の影響もあるため、市民は厳しい冬を迎えています。灯油の高騰により、例年の灯油の量が確保できないため、市の柔軟な対応をしていただきたいと考えていますがどうですか。

大きい3番です。コロナ禍、今こそ学校給食の無料化を。

①平成30年度から、小中学校給食費を半額助成していただいておりますが、どのような変化がありますか。また、学校給食の役割とは何か。再確認のため教えてください。

②コロナ禍が長期化し、格差と貧困が広がり、子どもも保護者もさまざまな困難に直面していると思われます。“子育て日本一”をめざす本市は、今こそ学校給食を無料化してはどうでしょうか。

大きい4番目です。教職員対象の「学校のあり方アンケート」について。

9月定例会の私の一般質問で、「学習会をして教職員の意見を聞くべきではないか」と質問しましたが、すでに昨年8月に教職員対象の「学校のあり方アンケート」がとられていたことが分りました、そのため以下2点質問いたします。

①6月の5地区説明会と総務文教常任委員会になぜ説明と報告がなかったのでしょうか。

②アンケートの結果をどう受け止めていらっしゃいますか。

以上が私の4つの質問ですが、答弁によりまして自席で再質問させていただきますので、よろしく願いいたします。

◎議長（青野隆一議員）

市長。

〔市長 菅根光雄 君 登壇〕

◎市長（菅根光雄君）

ただ今、鈴木清議員より、大きく4点についてご質問がございました。順次お答えいたします。

3点目のコロナ禍における学校給食の無料化と、4点目の教職員対象の「学校のあり方アンケート」に関する質問については、教育委員会より答弁いただきます。

はじめに、介護老人福祉施設である特別養護老人ホームの待機者についてですが、市内施設の入所申込者は延べ約410人となっており、入所申込をしてもすぐには入所できない状態であることを把握しております。その方々には、居宅介護サービスや老人保健施設、医療機関、有料老人ホームなどを利用しながら待機をしているようです。

また、待機者の実態は山形県が実施した令和2年6月1日時点の入所申込状況調査の結果によると、本市の入所申込の実人数は171名となっています。そのうち77名は介護老人保健施設や有料老人ホームに入所しており、また、54名の方が入院中であり、自宅で待機している方は40名となっています。その40名の中でも新規入所者の要件となる要介護度3以上の方は37名となっており、うち11名は現在特別養護老人ホームに入所しておりますので、施設入所が必要な方は順次施設へ入所している状況となっています。

特別養護老人ホームの入所判定については、各施設が入所に関する検討のための委員会を設置し、入所者を決定しています。入所に当たっては「介護の必要性の高さ」や「家族の状況」等を総合的に考慮して、緊急性が高い方を優先しているようです。

入所待機者については、ヘルパーが訪問して介護を行う訪問介護や施設に短期間入所できる短期入所生活介護などさまざまな居宅介護サービスが利用できますので、ケアマネージャーを中心にサービス提供事業者と連携し、引き続き本人及びその家族の方々の支援を行ってまいります。

次に、低所得世帯の冬期間の経済的負担を軽減するため、本市では、65歳以上の高齢者のみの世帯、重度障害者のみの世帯、重度障害者を含む高齢者世帯、ひとり親世帯等のいずれも住民税非課税世帯に対し5,000円を助成しています。

本事業の目的としては、価格の高騰に伴う経済的負担を軽減するため、灯油購入に要する費用の一部を助成するものです。助成の対象となる方には、冬期間の

生活が少しでも充実したものになるよう活用していただきたいと思います。

本事業は、県が示す要綱に基づき県下統一した施策となっておりますが、昨今の原油価格高騰による生活への影響は深刻に捉えています。引き続き県と連携を図り、状況を説明しながら、より活用しやすい制度になるよう引き続き働きかけてまいります。

以上、答弁とさせていただきます。

◎議長（青野隆一議員）

こども教育課長。

◎こども教育課長（坂木良一君）

それでは私のほうからは、学校給食の無料化について答弁をさせていただきます。

本市では、学校給食費への支援策として、平成30年度より学校給食費の半額助成を実施しており、また、第3子以降の学校給食費無料化と、要保護・準要保護世帯への給食費についても全額を助成しております。

こうした、給食費への支援により、保護者からは家計の負担が減り大変助かるといった声をいただいております。より充実した子育て支援に繋がっております。

学校給食の役割についてのご質問ですが、学校給食法では、「学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するもの」、「学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ること」といった教育的な役割が期待されており、これを実現するために7つの目標が定められております。

1つが、適切な栄養の摂取による健康の維持増進を図ること。

2つ目が、日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。

3つ目が、学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。

4つ目が、食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについて理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

5つ目が、食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについて理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。

6つ目が、我が国や各地域の優れた伝統的な食文化について理解を深めること。

7つ目が、食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

とされております。

このように、栄養効果が高く、おいしい給食を提供

していくことはもちろんですが、学校給食を通じて、教育的な目的を実現するといった大きな役割を担っています。

こうしたことから、本市においても、給食を通じた栄養指導や地産地消による地元食材についての学習、また自分たちで丹精込めて育てた米や野菜などを収穫し給食で食べるなど、食を通じた学習に取り組んでおります。

学校給食の無料化を実施すべきとのご質問ですが、県内では寒河江市と鮭川村で無料化を実施しておりますが、その他は約8割の自治体が、給食費の一部助成もしくは保護者が負担している状況であり、本市の給食費の半額助成については、先進的な取り組みであるというふうと考えております。

給食費の助成以外にも本市の子育て支援として、市独自での3歳～5歳児の副食費全額負担や、同時入所の場合の第2子目の保育料無償化、高校3年生までの医療費全額助成、さらには今年9月から他市に先駆け、県事業に合わせ3歳未満児の保育料について、市独自で無償化対象世帯を拡充しております。

また、学校教育においても、タブレット端末の購入や大型提示装置の配備、自動水栓化など、教育環境の整備にも力を入れ取り組んでおります。

このように、子育て日本一を目指す本市では、他の自治体と比較しても各種支援に積極的に取り組んでおり、その中で給食費については当面、半額助成を継続しながら、無料化については、県内自治体の取組み状況や今後の児童生徒数の推移、また財政負担なども考慮し、総合的に判断し対応していきたいと考えております。以上です。

◎議長（青野隆一議員）

教育指導室長。

◎教育指導室長（高橋和哉君）

私のほうから「学校のあり方アンケート」についてお答えいたします。

教職員対象のアンケートについては、昨年度の9月議会の答弁や令和2年3月の市報の「尾花沢市学校教育検討委員会」提言などでもお伝えしているとおり、昨年8月、市内の先生方を対象に実施しております。その目的と内容について、説明いたします。

まず、アンケートを実施した目的について申し上げます。

本市で教育活動にあたっていただいている先生方の意見を集約し、今後の学校のあり方に反映させることで、教育活動の充実を図ることが大きなねらいとなり

ます。

このねらいに沿って、アンケートにおいては、1つ目の視点として「望ましい学校施設の形態」や、「望ましい学校のスタイル」などについて意見をいただきました。

2つ目の視点としては、「これからの尾花沢市の教育に望むこと」や「学校のあり方全般についての要望」について意見をいただきました。

これらのアンケートでいただいた意見を集約し、参考にしながら、尾花沢市小中学校のあり方に関する基本方針（案）を策定する際、その内容を吟味する材料としてきました。

先生方の個人的な思いや願いなども十分に尊重するとともに、数値のみでない、大局的な判断のための資料としてきたため、数値や記載内容については、公開しておりませんでした。

その後、総務文教常任委員会で、内容についての説明を求められた際には、アンケートのまとめとなる資料を提示し、説明も行ってきております。

教職員アンケートの結果についてお答えします。

学校の施設については、隣接型または一部廊下でつながった一体型で、小中の連携や共通理解が図りやすい施設・形態が望まれていると捉えています。

学校のスタイルについては、「隣接するが独立した学校として協力」、「小・中、別々だが、9年間の教育課程を系統だて、連携を重視した併設型」など、小中学校の連携や協力を求める意見をトータルすると9割以上となっております。

また、小学校でのリーダーの経験や、小中の気持ちの切り替えも大切にしたいとの意見も多くいただいております。

これらの結果を踏まえ、令和9年開校予定の小学校の新校舎建設や、将来、小学校に隣接した中学校を建設する際の小中学校の形態等について充分検討していきたいと考えております。

◎議長（青野隆一議員）

鈴木清議員。

◎9番（鈴木清議員）

それでは大きい1番から再質問させていただきます。

特別養護老人ホームの入所待機者をどう解消するかという点で、まずは入所待機者の実態をどう掴むかというのが非常に大事だと思うのですが、どのように考えておられますか。

◎議長（青野隆一議員）

福祉課長。

◎福祉課長（吉野真広君）

議員にお答えいたします。老人ホームの待機者については、年々増えていたり、横ばいになったり、その年によって違うんですけども、実態的に市長が答弁いたしましたとおり、全員が自宅で待機しているという状態ではなく、老健施設なり、入院なりもしくは在宅で生料に介護している方というのは40名未満というふうに捉えております。

しかしながら、介護保険を全く使わないで介護しているということは、私どもとしては捉えておりませんが、基本的には介護保険が給付できる方については全て介護保険にて対応しているのかなというふうに捉えております。以上です。

◎議長（青野隆一議員）

鈴木清議員。

◎9番（鈴木清議員）

実態を掴むのは大変難しいというのがよく分かりました。尾花沢で入れなければ他市町村に申し込むこともできるということで、いろいろダブリがあって、410名の延べでいらっしゃるということでその他市町村とはかるものさしがないわけでした。私一生懸命調べて考えたんですけども、ものさしがないですけども、私たちの山形県社会保障推進協議会というのが毎年自治体養成キャラバンというのを行っておまして、その中でアンケートをした集計が出ております。

それを比べると、尾花沢市は県内で4番目に待機者が多いです。1番目は山形市で629人、2番天童市が212人、3番東根市169人、尾花沢市が149人。今報告していただいたのは、171名となっておりますけれども、誤差ありますけれども多いほうだと。だからどうだというふうにすぐに結論が出来ないと思って考えています。

何が比べられないかといいますと、定員数がそれぞれ違うんですね。山形市の場合は35施設があって、定数は1,748人の受け皿があります。尾花沢は定数が189人となっております、それぞれの自治体で受け皿の器が違う、申し込みが違うと。数学でいうとXとYが違うんだという、動いているもの同士ですので、難しいんだというふうに思います。それでも無理して私勝手に作ったんですけども、ものさしとしましてこの器の中からはみ出る人が何%いるかというのを調べたところ、尾花沢が79%器からはみ出ると。県内で1番です。2番は天童市で46%、3番は上山市で43%、新庄市が40%となりまして、あとは20%、30%です。尾花沢だけが79%という高いパーセントになります。

こういうものさしを使っていいかどうかそのものも確かめられなければなりませんけれども、器が小さいのではないかと、はじめから。それが私の結論なんですけれども。その器を大きくするために、市ではどのように考えていらっしゃるか、「第8期介護保険事業計画はながさやすらぎプラン」というのがあると思えますけれど、どのくらいの定数を増やそうとしていらっしゃいますか。

◎議長(青野隆一議員)

福祉課長。

◎福祉課長(吉野真広君)

お答えいたします。「第8期介護保険事業計画」によりますと、数床の増床を目指しておりますけれども、今、鈴木議員あつたとおりでですね、その鈴木議員独自のものさしであれば、山形市は1,700人、尾花沢市は189人ということでありまして、実際には人口を考えていただきたいと思えます。尾花沢市の人口の10倍でやっと15万人です。山形市は20万人を超えております。そういうことを考えると、まあ老人の人口ということで考えれば確かに高齢化率は高いんですけども、福祉のほうで捉えているのは老人の介護保険を利用する人じゃなくて、それを介護する人の実数が減っているのではないかと。実際に介護保険を利用する人の数は横ばいでした。それを介護する人、今までですとお母さんなりがわざわざ仕事を辞めて介護していたのが、それがやっぱり社会情勢の変化により仕事を続ける。そういうことで、だんだんそういう担い手がなくなってきたのではないかとというふうに捉えております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

介護保険の第8期計画では、月別の利用者で令和3年、4年、5年と216床に増やすというふうに計画されております。その下に項目が3点大事なことが書いてありまして、尾花沢の3施設のほか、他市町村の施設への入所により、入所者数は増加傾向で推移していると。増加傾向に推移して今後も従来と同等以上のサービス利用を見込んでおりますと。やや増加しているという傾向があるんだなというふうに理解しております。

それで、次の質問ですけれども、待機者が安心して順番を待つようにするにはどうするかということを私ずっと考えてきたんですけども、私たち市議会議員で「なかなか順番まわってこないのよ、100番って言

われたのよ」という相談を受けます。話を聞くと「91歳のお父さんが4年前に申請したけれども順番が早くならない、何とかしてくれ」というふうに市議会議員に言われますけれども、県の施設ですので私たちがどうのこうのっていうふうなことは出来ないですね。そのために安心して待つための工夫っていうのはどう考えていらっしゃいますか。

◎議長(青野隆一議員)

福祉課長。

◎福祉課長(吉野真広君)

お答えいたします。待機者についてはやはり増加傾向にあるかと思えますけれども、県が運営しているのではなくて、県が指定している介護施設でございますので、当市においても介護保険証のほうを発行し、それを利用するのが利用者でございます。利用者と施設のほうの契約関係上に則って利用するわけでございまして、これは医療保険証に置き換えますと、尾花沢市のほうにおいては国民健康保険を発行して、それをどこの医者にかかるかというのはその患者が決めるわけでございます。市のほうでどこの医者に行ってくださいというようなことはないわけでございます。介護保険法においても当市の方で介護保険証のほうは発行いたしておりますけれども、どこの施設を利用するかは利用者が決めるわけでございます。でありますので、その施設の中で市長の答弁にもありましたけれども、入所判定委員会等を開催しながら緊急度によって入所者の順番を決めているわけでございますけれども、当市としましてもケアマネージャーを通じながら、ただ順番待ち何番だということじゃなくてですね、実際のところこういう条件、こういう状態だから今のところ待ち日数がありますよということを常に声がけしながら「あなた何番ですよ」と言ってそのまま終わりじゃなくて、常に声がけをかけながら状態を把握しながらやっていくのが肝要かなというふうに思っております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

私は待機者が安心して順番を待てるように3つ提案をしたいと思います。

1つは入所指針に基づき点数化して順番を決めて入所判定委員会で順番を決めるわけですけれども、4年待っても何も無いというのは、それではあんまり安心して待てないので、途中で今順番どのくらいになったよという通知にはどうかという案です。自治体

によって違いますけれども、ほかの自治体で順番を通知するっていうふうにはしているところがあります。

2つ目の提案は、私が相談された例では、夜に喀痰吸引する職員がいないために100番待ちなんだけれども、まだ夜は受け入れられないので駄目ですと断られました。喀痰吸引というのは痰をとる仕事ですけども、今法の改正で2012年に研修すれば介護士ができるようになっていきますので、そういった夜痰をとる人を研修していただきたい。これが2点目です。

3番目は親身に相談にのっていただきたいと思えます。普通はケアマネージャーを中心にして相談しますが、何も分からないときは福祉課に行って、どうしたらいいだろうと聞くんですけども、いろいろ事業名言われても、わけ分からないところがありますので、「ここに行くと安くなるよ」とか、「こういう事業があるよ」というご案内をしていただきたいと、親身な相談です。以上3点提案させていただきたいと思えます。

施設の器を大きくするというのは、私は市の課題だろうなと思っているので、器の大きい尾花沢になっていただきたいというのがまとめです。

次、2番目の質問にまいります。福祉灯油についてですが、大変ありがたい福祉灯油であると思えますが、そもそもどのような考えの制度でありますか。

◎議長(青野隆一議員)

福祉課長。

◎福祉課長(吉野真広君)

お答えいたします。この福祉灯油券については、市長が答弁したとおりでありますけれども、低所得者等について該当する方に関してその灯油の一部を助成する制度でございます。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

いただいたように低所得者世帯の灯油購入に関わる負担を軽減するため一部補助というような名目ですね。冬期間の生活の安定をはかるためとしております。令和2年度の尾花沢の実績は656世帯掛ける5,000円ということであります。しかし今、灯油の高騰によりまして大変厳しい市民の実態ではないかなというふうに思うんですけども、実態で何か聞いていらっしゃるかなどありましたらお願いします。

◎議長(青野隆一議員)

福祉課長。

◎福祉課長(吉野真広君)

お答えいたします。実際に今全国的にも灯油価格、原油価格ですかね、こちらのほうが高騰している状況です。しかしながら今ここにおいては小康状態、安定、高止まりになっている状態でありまして、実際に先ほど議員のほうからは昨年度は656世帯ということでありましたけれども、11月31日現在では、まだ申請があるのはそれ以下でございました。各市町村のほうでも追加ということはあるみたいですけども、現在のところほとんどないような状況で、県のほうではですね、県議会のほうでは補正予算に追加交付関連の現状というか今のところは情報がなかったようでございます。追加交付はしない方向で進んでいるとの情報も確かにございます。当市としましても県との連携を図った上で、県が示す要項に基づき、県下統一した施策ですので北村山地域、近隣の自治体の動向も見極めながら対応していきたいというふうに思っております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

低所得世帯の冬の生活の実態はということで、私ちょっといろんな方にお聞きしたところ、例年1リットル70円が102円ぐらいになっているので、5割ぐらいアップしていると。今まで5,000円で70リットル以上買ったのが50リットル以下になっていると。それで大事に使わざるを得ないというふうなことで、こんなふうに使っているそうです。日中はストーブを点けない、電気こたつだけで我慢している。お客さんが来たら点ける時がある。お風呂は何日間に1回に入るようにしている。外出できる時は公共施設、例えば図書館が温かいのでそちらに移動していると。高齢者なんかは移動なかなか自由になりませんので、いろいろ工夫していらっしゃるというふうなことです。食べ物が十分でない、ひもじいという気持ちと、寒くて厳しいという気持ちが混ざり合って大変辛いという、今日なんかも雪が降っていますので辛い気持ちに拍車をかけていらっしゃると思います。

それで、どのくらいの灯油を1年間普通の人は使うのかと、私調べてみました。北海道の例しかありませんでしたので、北海道で年金暮らしの高齢者夫妻70代の2人で3LDK市営住宅に住んでいる場合に年間500~600リットルの灯油を使うそうです。これも節約しているんですけども、そうすると去年よりも負担が2万円増えるそうです。北海道年間1世帯あたりの灯油消費量というのはどのくらいかというのと1,417

リットル。尾花沢は北海道ほど寒くないのもっと少なくて済むかもしれませんが、1,417リットルを使うので、1世帯あたり4万円の負担増になるというふうな暮らしになっています。

先ほども県の動向と他市町村の動向を見極める必要があるということを仰っていただきましたけれども、今12月市議会開催中で決まってきたのが、長井市で5,000円上乗せです。真室川町は2,000円上乗せで合計7,000円。大石田町は5,000円上乗せを決定したので合計10,000円です。その他の地区はまだ様子見、国の対策と県の決定を待っているというふうなことであります。市で柔軟な対応、上乗せをしていただけないかという質問をさせていただきたいと思いますが、高齢者、低所得者の温かい新年を迎えるように柔軟に対応をお願いしたいんですけど、市長いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

非常に身につまされる質問でございます。実際にこの冬、配達付きで灯油1リットル100円を超えているわけです。かつて振り返ってみても、これほど高騰になったことはこのところなかったのかなというふうに思います。これほど大変な価格高騰の中で考えた場合には、次なる、私たちが考えていかなくちゃならないのは、そういった暖を削れということではなくて、やれる範囲で支援していきましょうよというふうになるんじゃないかと思います。まず実態をしっかりと把握した上で、今後の高騰がどの辺で収まるのか、そういったこともあるものですから、予算措置をやるにしてもどこまでやることができるか、そのところも十分に検討した上で担当課とも話し合っていきたいと思っております。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

温かい答弁をいただいたと思います。かつてこれだけ高騰した時がないというので調べてみますと、2008年のリーマンショックの時に高騰しているそうです。その時は夏場が高騰して9月以降下がって安定したということがあって、これだけ高騰している時はなかったということを言っておられます。例えて言うならば、災害級レベルだというふうに北海道の人やあちこちの人が言っていますので、ぜひとも温かい正月を迎えられるように柔軟な対応をお願いしたいと思います。

次に、3点目の学校給食の無償化について再質問させていただきます。

半減、半額していただいたという効果を先ほど言っていたいただきましたけれども、今、給食費の支払いはどのような形で行われていますか。

◎議長(青野隆一議員)

教育指導室長。

◎教育指導室長(高橋和哉君)

お答え申し上げます。給食費の集金については年額計算で全額いくらになるかというのを集計した上で、他の学費等、全部含めた上で8回~10回程度、年額の割り算にして集金させていただいております。一括給食費のみ集金というふうなことは行っておりません。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

昔のように給食費の支払いをしていないというのが見えないような形で、教育費という形で月別になっているので、そういう工夫をされていらっしゃるというふうに思います。

それで、学校給食の役割というのを先ほどたくさん項目を聞かせていただきましたけれども、『給食の役割』というのを本1冊読んでみて、2つ鉄則があるそうです。1つは子どもたちを飢えさせてはいけないという鉄則。もう1つは子どもたちにスティグマ(烙印)を与えないという役割があると。スティグマというのは引け目を感じたり、烙印を押すということをよく言うんですけども。私の場合は、脱脂粉乳からずっと給食の歴史をなぞらえるようになってきているなと思って考えているんですけども、尾花沢市では中学校で給食がなくて弁当給食でした。私の場合はあまり豊かな弁当ではないので、麦飯で白いご飯ではないし、たくあんと納豆が入っていたりしているので、他人に見られないように新聞紙で隠しながら食べた、それがスティグマですね。今考えてみると、後ろから「もっと堂々と胸張ってお前生きてみる」というふうに言ってあげたくなるぐらい、どんなに貧しい食事でもお母さんが一生懸命作ってくれたこと、貧しくても胸を張って生きるという、今そんな考えを持っています。

今、中学校給食が実現しまして、そういったことは考えなくてもよくなった時代です。けれどもコロナ禍によってまた事態が変わってきています。今子どもの貧困が7人に1人になっておりまして、長引くコロナで女性の自殺が増えたり、不登校が19万6千人になっ

たり、若者が非正規労働になっていたり、大学生が食事を削っている、食事を抜いているというふうなことがあります。先ほどの原油高騰、物価高、消費税10%そういった諸々の格差と貧困が広がっている中で、先ほど2つのこと言いましたけれども、スティグマを与えないというのと飢えさせない、そして、給食費を無料にするというのは貧困対策でもありまして、貧困を見えないようにするという役割があるようです。それで、私はコロナ禍の今こそ、給食の無償化をする必要があるのではないかと思いますけれども、あと2分の1どのぐらいの財源があったら無償化できるでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

こども教育課長。

◎こども教育課長(坂木良一君)

給食費を無料化するための財源というふうなお話でありましたが、子どもたちの児童、生徒の給食費というふうなことで、今年度の児童、生徒数で試算しますと、約5,600万円ほどになります。ざっとこの半分については市のほうで負担しているというふうな形になりますので、さらに2,800万円ほどの財源が必要になってくるのかなというふうに思われます。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

2,800万円、財政難の時にこれを捻出するのは大変だと思いますけれども、無償化している寒河江市はどうしているかといいますと、ふるさと納税を活用しているようですね。寒河江市はふるさと納税の額が大きくなっているということがありますけれども、そういったものも使いながらやるという方法があるのかなというふうに思っております。寒河江市は、チラシなんかを見ると『寒河江市は子育てに本気です』とありますね、本気です。では尾花沢は何だろうかなと考えて、尾花沢は子どもが減ってきて、『尾花沢は子育てに必死です』と私は言い返してやりたいぐらい、必死に頑張っていますよって。今頃本気になったんですか、そうじゃありません、尾花沢は必死で皆で知恵を出して頑張っています。そういった姿を見せる必要があるのではないかなと思っています。

私これまで給食に関して、4人の市長さんと交渉したり話し合いました。

1番最初は星川剛市長ですけれども、「中学校給食は必要ない、愛情弁当こそが必要だ。」愛情弁当論でした。

その次は小野紀男市長ですけれども、小野紀男市長の時にようやく中学校給食を実現していただきました。この時に、私たち共産党議員2人いたので「中学校給食を実現する会」と作りまして、ずうっと交渉してまいりました。小野市長で16年かかってようやく実現しました。署名を2,400筆集めてお願いしました。

3番目の市長は加藤前市長ですけれども、ようやく給食費を半額助成していただきました。また、中学校にエレベーターを付けていただきまして、4階まで運ばなくても、エレベーターで安全に運べるというふうになりました。

さて今度は、現菅根市長であります。菅根市長は人にやさしくあったかい政治、子育て日本一を目指す、子育て日本一への挑戦を掲げております。菅根市長が実現したことは、先ほど答弁でありました。高校3年生までの医療費の無料化、それから幼稚園、保育園施設の給食の副食費を無料にさせていただいております。1ヵ月4,500円ですから、学校と同じぐらいになっていますね。あともう1歩と私は思っています。子育て日本一を目指す、給食というのは、今まで義務教育は無償ということで教科書代、授業代が無償になって、その次は給食費なんです。最初憲法作った時、国が豊かになったら順番にやっていきますということでしたけれども、給食費というのは小学校の学校教育費の48%、半分占めています。中学校は37.6%、3分の1、それを2分の1ずつ補助してもらったので、半分になっていますけれども、給食費という、無償というのをものすごく去年、一昨年から皆さんコロナで苦労しているので、苦労している今こそ、尾花沢は頑張るべきではないかなというふうに思いますけれど、再度市長いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

給食に関して言われますと、実は私にとっては、非常に何かというか辛い思い出があると。ちょうど私が小学校時代というのは、父が仕事を失敗した時期でした。本当に日々、食べるものもない時代でございました。そして親父の仕事の関係で最上町に行ったときに、最上町は小学校の給食がもうすでに開始されておりました。県内でもいち早かったと思います。その時に給食を見て私は「給食を食べれるんだ」とものすごく喜びました。食べるものがあるとは非常に大切だなと思ったわけですけれども、その後ももちろん中学では弁当でした。高校も同じです。大学行って、結局大学生活

をどう過ごすかという形になるのでしょうかけれども、私の学生生活も決して楽な状況ではございませんでした。日々やはりきちっとした時間を設けてアルバイトをし、朝ご飯を削ったり昼ご飯を削ったりして、書籍を買い求めなければいけないという生活でした。

だから子どもたちには、そういうふうな不自由な思いはさせたくないというのは、鈴木議員と多分同様だと思います。その中で現在、尾花沢の場合には先ほど答弁ありましたけれども、要保護、それから準要保護世帯に関しては、給食費は全額助成しているわけです。今の鈴木議員の仰っていることからすれば、子どもたちは全世帯この状態だと、だから全額助成しろというふうに今聞こえていました。現在、これ市民税務課のほうに聞かなくちゃならないですけど、全世帯このような状態なのかどうか、そこをまず第一点確認しなくちゃならないと思います。

それから、寒河江市役所のことを今仰いましたけれども、昨年寒河江市は、ふるさと納税58億円です。尾花沢は5億8千万円です。10分の1の中で、同じように寒河江市のようにやれといっても、やはり子どもが土俵に上がるのと、大人が土俵に上がるのと同じように相撲をとれるかというところが違います。尾花沢は尾花沢にあった財政の中でやっていかなきゃいけない。でも、何とかそれをやっていくには、どうすればいいかと言えば、今私の頭の中にあるのは、ふるさと納税のとにかく増額を図ってほしい。今年も前年よりも上がります。本当に多くの皆さんからご協力いただいて、当初予定していた金額を超えていくという形でありますけれども、それでも寒河江市のようにはならない。じゃあどうすればいいんだというふうな形の中で、新しい対策を今とりつつあります。来年度はできれば2桁、再来年はさらにもっと大きくなって、近い将来20億、25億円というふうな形を夢見てですね、その上で子どもたちに対する対応もしっかり取っていききたいと、それまでの間、若干時間をいただけたらありがたいと思います。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

大変あたたかく力強い目標を言っていただきました。私も同感であります。今コロナ禍で、子どもたちは門をくぐったらみんな平等になって、お互いの経済格差を気にせず仲良くできる、そのためにやはり給食費の無償化を目指していただきたい。すぐというのは私も出来ないと思いますけれども、目指していただき

いというのは一緒でありますのでよろしくお願いいたします。

次の質問に入ります。教職員対象の「学校のあり方アンケート」についてですけれども、去年の8月だったので、なぜ5地区の委員会と私たちの総務文教常任委員会に報告してくれなかったのかなというふうに思っているんですけれども、そここのところをもう一回答弁をお願いします。

◎議長(青野隆一議員)

教育指導室長。

◎教育指導室長(高橋和哉君)

ではもう少しお答えしたいと思います。

ひとつ、アンケートをとった目的というのが当初、その案を作るにあたって先生方の意識調査をするというのがまず1つ大きな目的でした。ですので、この資料の数値を公開することによって、話し合いを遮ってはならないというふうなことがまずひとつございました。ですので、総務常任委員会のほうについては求めがあった際には資料を提供させていただいたところで

す。地域については、純粹にその地区の皆様の見解を伺いたいというふうなことがまず初めの目的にございましたので、それに沿った形で提示したことによって、話し合いを左右することのないようにというふうな配慮のもと、そのような取り扱いとさせていただきます。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

9月定例会の時も言いましたけれども、やはり専門の先生方の意見はものすごく大事だろうなというふううに私も思っております。今答弁していただいたように、全部に出していいかというのはまた問題がありまして、例えばどこその場所がいいとか、いろんな意見あるので、表には出せないというのがあると思います。ですけれども、円グラフでこういう意見だったよと大まかなものは出してもいいのではないのかなと自分では思っています。当局でいろいろなアンケート各課でやられておまして、本当に素晴らしいアンケートばかりなんだと思いますけれども、遠慮なく出してほしいというのが私の考えで、特に前回も5人質問したりして、統廃合の問題、みんな気にしていますので出していただきたいなと思っております。

私もう一つ考えるのは、このアンケートは、アンケート自体が宿命のように持っている点検、チェックさ

れるアンケートがいいかどうかというのは、チェックされる宿命という言い方はおかしいかもしれないけれど、そうなっていると思います。先ほどの答弁で回答の把握も私と全然捉え方が違うなあというのがあります。どんなことかと言いますと、私2つだけアンケートについては言いたいところあるんですけども、形態についての質問で、隣接一体型、分離型、その他というふうにありました。先生方にお聞きしたのは、理想の教育学校像をお聞きしたんですけども、隣接、分設一体型、その他でいいのかどうかというのが私ちょっと不満に思っております。今やっている6・3制の小学校・中学校の現在あるものも、やっぱり選択肢に入らないとおかしいのではないかなと思っております。アンケートのやり方で見ますと、県の教育委員会からの義務教育学校、小中一貫校についての詳しい資料がありまして、これを参考にして下さいというふうなこともありましたので、一生懸命私も読んで回答するならば、私はその他になるなと思って。従来の小学校、中学校別々に今建てているところで、6・3制を大事にするっていう選択肢になるので、ちょっと違うなあというふうに思いました。その点について②でスタイルを聞く段になって初めて、従来のスタイルについての回答がアイウエオとありまして、アは隣接はするけれども現在同様独立した学校として協力したらいいだろうと、独立した学校、小中別々です。イが義務教育学校としての9年間。ウが小中併設型。エが小中連携型。オはその他。というふうにありまして、ここになるとアの独立した学校だというふうに選び方ができるんですけども、最初の①の質問でも、独立した学校という選択肢6・3制の今のあり方も入れていただければ、少し回答が違ってくるだろうなというふうに思っております。①の「学校施設の形態」での回答は、隣接型が47%です。これは隣接だけでもつながっていない、廊下でもつながっていない、別々にしてくださいというのが過半数、47%半分ですね。その他、分離型が4分の1の24%あるので、合わせると4分の3がつけなげないでください、別々にしてくださいという回答ですね、私の結果の受けとめ方は、②のスタイルについて言いますと、ここでも独立した今までどおりの学校にしてほしいというのが39%で1番多いです。先ほどの答弁では隣接しても連絡取りあって小中一貫校になるかも何になるかもわからないけれども、してほしいというのが9割だと仰いましたけれども、9割は言ってないという。独立型を求めて先生方は同じ場所で小中をつくってもいいけれども、隣接でくっつけ

ないで、中身は今と同じ小中の6・3制をしてほしいという回答だなあというふうに思っているんですけども、これを延々と言っても仕方がないことなので、また今後各地区から検討委員会の結論も出てきますけれども、私と大類議員が今の小中学校に建てたらいいだろうという案がアイウエオの一番最後のほうにまた入るなあと思っているんですけども、そういう選択肢ももう一度考えてもらって、吟味していただきたいと思っていますけれど、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

また以前のことを思い出しましてですね、またそこにいったなという感じが否めないです。市としてはどういう形にするかと前回ご答弁したとおりです。まだこうするかというのは何も言っていないのであって、あくまでも一貫校とかその他今議員が仰ったようなことも、あくまでも分離型でいって小学校は小学校、中学校は中学校という形で現在私たちは描いています。ですから、いろんな形でご心配いただくのは非常にありがたいんですけども、次のステップに進めるようなそういったところに、ぜひいろんな形でのご意見を賜りたいというふうに思います。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木清議員。

◎9番(鈴木清議員)

何度も何度も同じようなことを私も繰り返しているような気がしますけれども、今日の質問は先生方の意見をくみ取って考えていただきたいと。そこで終わりであります。そういうことでまたいろいろ検討していただきたいと思います。以上で私の質問を終わります。

◎議長(青野隆一議員)

以上で、鈴木清議員の質問を打ち切ります。次に12番 奥山格議員の発言を許します。奥山格議員。

[12番 奥山格 議員 登壇]

◎12番(奥山格議員)

先に発言通告しております項目につきまして、一般質問をさせていただきます。

まず学園構想についてであります。前回9月の定例会においても多くの議員の方々から質問されました。本市にとって大変重要な問題でありますので、私からも質問させていただきます。

その学園構想の内容について改めてお尋ねいたします。また学園構想は、子どもたちの教育面にとってどんな利点があるのか、小学生にとってどのような利

点があるのか、また中学生にとってはどのような利点があるのか、保育園も関係する場合、保育園児にとってはどのような利点があるのかについてお尋ねいたします。

また学園構想は本市の市民にとってどのような利点があるのかについてお尋ねいたします。また学園構想は本市の財政面でどのようなメリットがあるのか、それについてお尋ねいたします。また学園構想は学園の場所という点で本市にとってどのような利点があるのかお尋ねいたします。

また都市計画マスタープランを策定中ではありますが、その立地適正化計画案の中で、都市機能誘導区域がありますが、小学校、中学校また保育園もその都市機能誘導区域の中に誘導する考えなのかについてお尋ねしたいと思います。

次に、米価の下落に対する農家の支援策についてお尋ねいたします。今年の米の概算払い価格は、つや姫が前年度比500円減にとどまり15,300円前後でしたが、はえぬきは前年度比2,200円減の9,500円前後、ひとめぼれ、あきたこまちも前年度2,200円減のそれぞれ9,500円前後になるとみられます。これも年間10万トンのペースで米需要が減っていることに加えて、新型コロナウイルス感染症の増大により、宿泊業や飲食業の業績不振による米の外食需要が回復していないことを踏まえたものであります。また外国産米の77万トンの輸入によって外国からも入ってくる。それが米余りに拍車をかけている結果になっております。ただこれによって米価は下落しておりますので、生産費用がかなりかかるわけでありまして、次期の稲作経営ができないのではないかとということが心配されております。本市でも県の支援策と併せて独自の支援策として10aあたり1,000円を支給するとの方針を示されていますが、今年の米価の下落による農家の減収の補填としては、まだまだ不十分と思われれます。今後さらに追加支援も必要と思えますがどのように考えていますか。

次に、本市観光の誘客対策についてお尋ねいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、今は全国で1日100人台になってきて拡大が収まってきています。ただ最近アフリカで発生した変異株のオミクロン株が世界で感染拡大しており、政府では国内に入るのを防ぐために水際対策として12月の1カ月間、外国人の新規入国を禁止しました。オミクロン株の感染拡大やこれから寒くなってくる時期、第6波の感染拡大を防ぎながらも、政府は今後宿泊業飲食業を支援するた

めに、GoToキャンペーン、GoToトラベル、GoToEatの政策を再開する方針であります。本市でも観光客の増加に努めるべきではないかと思えますが、どのように考えていますか。

そこで、花笠高原荘の観光誘客についてまずお尋ねいたします。花笠高原荘について、宿泊客に喜んでもらうためには、老朽化してきている施設の改修が必要になってきています。その中でトイレの洋式化でありますけれども、中の施設のトイレ、特に宿泊する部屋以外のトイレは洋式化されていない現状であります。これを洋式化してはいかがかと思えますが、どのように考えますか。また高齢者が宿泊するには階段だと上がるのが不自由なお客さんがたくさんいらっしゃいます。エレベーターの設備があれば、宿泊客など利用客が増えるのではないかと思われれますけれども、エレベーターを設ける考えはないかについてお尋ねいたします。

また昨年は記録的な豪雪でありました。市民にとっては毎日の除雪、雪下ろしなどに大変な労力を必要として大変な思いをされた方が多かったと思えます。しかしスキー客にとっては大変魅力的なことであったのではなかったかと思えます。今年は今のところ積雪は少ないですが、天気予報では今週は雪の日が多くなってきています。花笠高原スキー場の本シーズンの誘客対策については考えていることはありますか。花笠高原荘に宿泊を伴ったスキー客の誘致ができれば良いと思えますがどのように考えていますか。銀山温泉の観光客誘客拡大については、何か考えていることはありますか。また徳良湖温泉やレストラン徳良湖についてはどのように考えていますか。

次に、万寿荘の今後のあり方についてお尋ねいたします。養護老人ホーム万寿荘について、入居者数が定員を下回ってきており、徳良会が万寿荘の経営を辞めたいと申し込みされています。現在万寿荘に入居している方が何名いらっしゃるのかを尋ねいたします。万寿荘が閉鎖となれば、入居者の方を市外の他の養護老人ホームに転居してもらわなければならないということではありますが、現在入居者の方の状況はどういうふうになっていますか。万寿荘に入居する場合の手続きは、直接万寿荘では出来ません。市の窓口にご相談して入所判定委員会にかけて入居要件に該当する方を市で入居させるのではないですか。万寿荘の定員割れが生じているのは、市のほうで入所措置をしていないからでありますけれども、入所の要件に該当する高齢者がいないからですか。お尋ねいたします。

万寿荘の運営に関わる経費の措置費でありますけれども、市町村の負担はどのくらいになっていますか、国の負担があるのではないですか。

現在新型コロナウイルス感染症の感染拡大の不安があったので、特に入所手続きをする人が少なかったからということはありませんか、お尋ねしたいと思います。現在の入居者がいる以上、入居者にとっては必要ではないかと思えます。入居者も市民であり、市民の要望がある以上、しかも一定数の要望がある以上存続する必要があるのではないかと思えますが、本市にとって養護老人ホームは、今後必要ない施設だと考えておられるのですか。どのようにすれば存続が可能なのか徳良会と十分相談はしてみたのかについてお尋ねいたします。

次にパレットスクエアの閉鎖についてであります。これについて大類議員からも質問ありましたが、パレットスクエアの閉鎖の申し出について現在の進捗状況はどうなっているのか、これについても答弁がありました。私なりに質問させていただきたいと思えます。

業務スーパーについては、主に食料品について市民の方、特に近隣の市民に喜ばれていると思えます。上町地区には他のスーパーが出店しているので、そのシェアは少なくなっていると思えますが、上町の中心にありその営業活動は上町地域に活気を与えている意味では、非常にありがたい施設であると思えます。また中には他の店もテナントとして入っているわけであり、また多くの路線バス、また公立病院行きバス、大石田通学線、銀山線、仙台行きのバスの発着所になっております。施設の中に待合スペースがあり、特に冬季には暖房もあり大変役に立ち、またトイレも利用でき、また待っている間に店内で買い物もできるので大変便利であります。閉鎖になれば、これが全て使えなくなってしまう恐れがあり、バス待合所としては代替施設を建設しなければならず、その建設費、管理費もかかり大変大きな課題が生ずると思えます。またスイミングプールの営業をしており、本市には他に市民プールがないため、今後どのようにして水泳をしたいという市民のニーズに応えるか、これも大きな課題があります。また施設内には子育て支援センターABESAもあり、その代替施設をどこに設けるかという問題も生じます。他に観光物産協会やシルバー人材センターの事務所もあり、その移転先を探さなければなりません。こう見てくると、パレットスクエアの存在は本市の都市機能として大変重要な役割を果たしているといえます。ゆえに、パレットスクエアの問題

は大変重要な問題であります。商業施設として、公共交通の拠点施設として、社会教育、社会体育、学校体育の拠点として、また子育て支援の施設としてであります。現在所有者と市の間でどのような話し合いになっているのか、市としてはどのように考えているのか。もしパレットスクエアが閉鎖になり、解体された場合には、これまでの施設をどのようにする考えか。できれば長く存続してほしいと思えますが、現状話し合いではどのような状況になっていますか。

これで壇上からの私の質問を終わりますが、答弁のいかんによりましては、再質問させていただきますのでよろしく願い申し上げます。

◎議長（青野隆一議員）

市長。

〔市長 菅根光雄 君 登壇〕

◎市長（菅根光雄君）

ただ今、奥山議員からは、大きく5点のご質問をいただきました。前段で他の議員からも同じような内容の質問をいただいているわけですので、その際の答弁等もですね、参考にして質問の中に活かしていただくと非常にありがたいと思えます。できるだけ建設的なご意見等、ないしは質疑、ご質問いただくと私たちもこれから先へ大きな光を得られると思えますのでよろしく願いいたします。

1点目の学園構想についてのご質問のうち、教育面の利点については、教育委員会より答弁いただきます。

はじめに、学園構想についてですが、これまでの定例会の際にもお答えしておりますが、学園構想とは想定を超える少子化が進行する中であっても、適正規模による学校としての機能を大切に、さらには保・小・中の連携を図り、子どもたちにとって最適な教育環境を整備したいとの思いからのものです。

具体的には、当初おもだか保育園と尾花沢小学校の老朽化を考慮し、保育所と小学校の一体的な整備により、保育と教育の連携を図りながら、グラウンドや駐車場なども共有でき効率化を図る考えでした。

しかし、就任後、学校教育検討委員会より出された提言書で、「学校間の連携や公共施設の有効活用等から、中学校の隣接も考えていくことが効果的と思われる」とのことや、「小学校の統合状況に合わせ、中学校を小学校に隣接し、可能な年度で建設することが望ましい。」との提言がなされました。

この提言を受け、子どもたちの望ましい教育環境を考えれば、当然のことながら中学校との連携も視野に入れる必要がありますので、将来的には、統合小学校

に隣接した形で中学校を建設し、これも含めた学園構想として整備したいと考えております。

また、新たに保育・教育の拠点となる施設を整備することになれば、本市のまちづくり全体に賑わいと活気をもたらすこととなりますので、学園構想を核としたまちづくり「学園都市構想」に取り組んでいく考えです。

次に、市民の皆さまにとってどのような利点があるかについてです。

学園構想に関しては、第7次尾花沢市総合振興計画の政策の柱「ふるさと愛を育むまち」に、重点プロジェクトでは「子育て日本一への挑戦！子育て応援プロジェクト」に位置付けており、めまぐるしく変化する社会にも柔軟に対応でき、新しい時代を牽引できる子どもたちの育成に取り組んでおります。

学園構想により各地区の子どもたちが一緒に学ぶことで、市内全域の郷土の歴史や文化、産業などに触れることができ、この体験は、子どもたち一人ひとりの「ふるさと愛」をより一層育むことにつながります。

加えて、他者を思いやる豊かな心と新しい時代を牽引できる力を身に付けることができるよう、学校、家庭、地域が連携して、ふるさとの良さやここで暮らす喜びを知る環境づくりを進めることが、未来の尾花沢を担っていく人材の育成につながると考えております。私たちは、先人たちから受け継いだバトンをしっかり受け止め、さらに磨き上げたバトンを次の世代へつないでいかなければなりません。次世代を担う子どもたちの教育に力を注ぐためにも、学園構想による教育環境の整備にしっかりと取り組んでまいります。

次に、財政面でのメリットについてですが、各学校を整備する場合には理科室や音楽室などの特別教室をそれぞれに整備しなければなりません。統合校1校とした場合には1つで済み、建設費用は大幅に削減できます。

また、学校を1つに集約することで、それぞれの学校ごとに要した維持管理経費や人件費も圧縮されますので、本市の財政面のみならずメリットが考えられます。

学園構想の場所についてですが、9月定例会の一般質問でお答えしたとおり、7ないし8haの大きな敷地を確保することから、現段階では本市にとっての利点という観点ではなく、まずは、保育園、小学校、中学校が一体的に建設可能となる面積要件で候補地を抽出しています。

まずは、小中学校の再編統合に関する検討委員会で

まとめられた各地区の意見を踏まえ、本市の小中学校のあり方について方針を決定し、その上で新たな小学校の建設に向けて取り組むこととなります。建設候補地の選定にあたっては、教育環境の視点やまちづくりの視点など、さまざまな角度から検討を重ね、市民の皆様のご意見をいただきながら取り組んでまいります。

今年度策定を進めている立地適正化計画において、居住誘導区域や都市機能誘導区域及び誘導施設を設定し、コンパクトなまちづくりを推進していきたいと考えております。

都市機能誘導区域については、誘導施設として設定した施設を緩やかに区域内に誘導するために設定するものであり、設定した区域内に整備を強制するものではありません。

学園構想については、現段階において、どの場所に施設が立地するか未定であることから、建設する場所が決まった段階で必要に応じて区域の見直しを行ってまいります。

次に、米価下落に対する農家支援策についてですが、まず、本市独自支援策については、先日の伊藤議員、菅野修一議員の一般質問でお答えしたとおり、今議会の最終日に提案させていただく準備を進めています。米価下落の影響緩和、及び稲作農家の営農継続を目的とした支援策としています。

また、国や県に対する米価下落に対する支援要望については、先日の伊藤議員の一般質問でお答えしたとおり、「山形県市長会」を通して、国、県選出国會議員及び山形県知事に、「東北市長会」と「全国市長会」を通して、農林水産大臣に、要望書の提出や予算確保の呼び掛けを行いました。

県では、現在開会されている12月県議会の初日に稲作農家に対する支援が上程されました。今月中に予定される担当者説明会で詳細な説明を受ける予定であり、これまでの要望や呼び掛けが形になったと捉えます。

今回の米価下落は、コロナウイルス感染拡大による全国的な問題ですので、今後も国に対し必要な予算確保を呼び掛けてまいります。

次に、本市の観光誘客の取組みについてですが、新型コロナ第5波の流行が収束し、県内の新型コロナ対応の目安もレベル2の「県内での感染者の確認が限定的な状態」となり、旅行や帰省に伴う人の流れも出始めております。そのような中、国では事業者支援と消費喚起の両側面からの機能を持つ「Go To トラベル事業」や「Go To Eat キャンペーン事業」について、1月下旬に再開することが検討されていると聞い

ております。

本市でも、これまで、宿泊業や飲食業も含めた全事業者を対象とした「事業持続化応援支援金」を実施し、支援してまいりました。特に影響の大きかった、この2つの業種には、重点的に事業を展開し、取り組みを実施してまいりました。

現在もタクシーやバス等を活用しての旅行を支援する「市民おでかけ応援事業」や、市内飲食店等の利用を促進する「じもとDEグルメ満喫事業」を実施しております。両事業とも、国や県の事業との併用も可能としており、利用者からは、お得感があり使い勝手が良いとのご意見も頂戴しています。

国の事業の再開に関しては、昨年ですと急激に人の流れが増加する様子が見られました。そのため、銀山温泉の各旅館や市内飲食店では、感染防止対策を徹底し誘客を図る必要があります。感染防止のための衛生対策費へ支援する「にぎわいづくり応援事業」を実施し、226事業所へ総額5,573万6,000円の支援をしてまいりました。

国のGOT事業は、旅行商品等の購買訴求力が高く、再開すれば十分な誘客が見込まれますので、感染防止対策を更に徹底し、誘客と市民の安全の確保に努める考えです。

次に花笠高原荘についてです。

花笠高原荘については、宿泊部屋、1階共同トイレに洋式トイレが整備されていますが、2階共同トイレは建設当初から和式のみとなっています。2階共同トイレの主な利用者は、2階大部屋を利用した宴会や法事のお客様ですが、洋式トイレが必要な場合は、隣接する部屋の洋式トイレへご案内するなど、お客様の利便性を第一に対応しております。

また、エレベーター設置に関するご提案ですが、花笠高原荘自体も老朽化していることを踏まえると、エレベーター設置は現時点では難しいと考えています。

次に、花笠高原スキー場の今シーズンの誘客対策についてですが、一昨年は異常気象による少雪、また、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により、満足に誘客できない状態でした。毎年、天童市内の大型商業施設で実施されるウインタースポーツイベントに今年も参加し、花笠高原スキー場のPRとシーズン券を販売し利用者拡大に努めました。

また、新たな試みとして毎月第2・第4日曜日を「レディースデー」とし、1日券を通常1,570円のところ大人女性には1,000円で販売するなど、女性客の利用促進のみならず、家族連れや友人同士の客層を導

き、利用者の拡大を図ります。

ぜひ議員の皆様方にも花笠高原に足を運んでいただき、関係者の皆さんの頑張りに一声かけて励ましていただきたいということをこの場を借りてお願いしておきます。

次に、銀山温泉の観光誘客拡大についてですが、銀山温泉については、先月21日まで「銀山温泉千年廻廊2021」と銘打ったライトアップイベントを実施しました。約1カ月の開催期間には、約4,500名の来場があり、幻想的で普段とは違った銀山温泉の夜景を多くの方に楽しんでいただきました。また、普段からSNSに多くの方が銀山温泉の映像をアップしており、若い方を中心とした誘客に繋がるものと期待しております。あわせてYouTubeでもかなり多くの方々からアップしていただいております。ぜひご覧いただきたいと思います。

次に、徳良湖温泉やレストラン徳良湖の観光誘客についてですが、レストラン徳良湖については、昨年7月に幅広い層をターゲットにしたメニューを一新し、好評を得ております。また、今年8月から店舗の改修工事を実施中で、多目的トイレの新設、店内レイアウト変更による客席の増加など、より利用しやすい施設を目指しております。今後も徳良湖周辺施設と連携した事業を企画するなど、さらなる利用者拡大に向け努めてまいります。

また、徳良湖温泉「花笠の湯」については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、宴会や法事等の団体利用が大きく減少するなど、苦戦している状況が続いています。加えて石油や光熱水費の高騰もあり経営に大きく影響しています。

今定例会には、「花笠高原・徳良湖周辺施設復活応援事業費補助金」としてクーポン券発行事業を上程しております。「第3弾得とくクーポン券」として3,000枚を発行する計画で、好評だった第1弾・第2弾に続き、利用者への消費喚起を行い、多くの方が徳良湖温泉「花笠の湯」を利用してもらえるよう、指定管理者である(株)尾花沢市ふるさと振興公社と協議しながら、温泉や食堂を活用したイベントなど、新たな集客対策をとってまいります。

次に、万寿荘の今後のあり方についてお答えします。

養護老人ホームは、65歳以上の者であって、身体上若しくは精神上又は環境上の理由及び経済的理由により在宅での生活が困難なものを入所させ、養護することを目的とする施設です。

養護老人ホーム万寿荘は、昭和40年に設立され、平

成5年に徳良会に移管しましたが、高齢者のニーズの変化や生活スタイルの多様化、介護サービスの充実により入所希望者が減少し定員割れが生じている状況です。

このような理由から、一昨年から市関係課と徳良会とで運営の方向性について何度も協議を重ねた結果、徳良会の理事会、評議委員会にて施設の廃止について議決された運びとなっております。なお、万寿荘の事業の廃止については、令和3年1月8日の全員協議会で議員の皆様にはご説明させていただいております。詳細については担当課長より説明いたさせます。

次に、パレットスクエアの閉鎖の申し出についての現状ですが、先の質問でもお答えしましたが、これまで6回話し合いの場を設けてまいりました。市としては、大変急な話でしたので、施設の老朽化等の課題については理解するものの、解体時期を延長し、当面の間継続運営していただけないか、交渉しております。現時点で、解体時期は明言していないものの、施設解体の方針に変わりはないようですので、施設に入居している市の関係施設の移転先などについて、早急に対応を検討する必要があります。

現在入居している市の関係施設については、先の質問でもお答えしたとおり、所管課で個別に対応を協議しております。調整等を含め一定期間必要になりますので、引き続き解体時期の延長を求めるとともに、利用者がスムーズに移行できるよう、丁寧に対応してまいりたいと考えております。

次に、パレットスクエア内のプールやABESA等の代替施設についてですが、学校教育関係では、これまでプールが無い小学校の水泳授業について、パレットスクエア内のプール運営事業所に委託し授業を実施してきましたが、学校とも協議し、今年度より、プールがない小学校については、プールがある小学校に移動し、水泳授業を行っております。次年度以降についても、同様の対応で実施していく考えです。

また、ABESAの機能については、先の一般質問にもお答えいたしました。今般改訂した徳良湖周辺整備マスタープランには、「基幹集落センター多目的ホールへの屋内遊具設置」を新たに位置付けていますので、基幹集落センターも含めた既存施設の活用について検討したいと考えております。

以上答弁とさせていただきます。

◎議長(青野隆一議員)

教育指導室長。

◎教育指導室長(高橋和哉君)

では私のほうから学園構想について、学校との関わりについてお答えいたします。

学園構想による、小学校・中学校・保育園にとっての教育面の利点については、9月定例会での鈴木清議員への答弁の内容と重なる点もありますが、お答えします。

学園構想は、施設・設備を集約し、連携を取りやすくすることが大きな目的としてあげられます。このため、小学校・中学校および保育園においては次のような利点があると考えております。

1点目は、小学校と中学校、保育園が共同で行事を行ったり、学習で協力したりするなど、学校の枠を超えての交流がやりやすい点です。

2点目は、子どもに関する情報交換がしやすくなり、中学校入学時の「中1ギャップ」の解消や、小学校入学時の不安感の解消などの効果が期待できます。

また、保育園児や小学生が先輩の姿を見て目標としたり、小さい子への思いやりの心を育てたりすることなども期待できます。

3点目は、教員同士の連携により、中学校の音楽担当教員が小学校で6年生に中学校の校歌の指導をしたり、体育担当教員が運動会前に陸上指導を行ったりなど、専門的な指導を行うことが可能になります。

また、共有できる施設があれば、その分、経費や管理の負担を軽減でき、他の施設・備品等にまわすことも可能となり、大きな利点になると考えております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

福祉事務所長。

◎福祉事務所長(吉野真広君)

それでは万寿荘については、質問の項目ごとに福祉事務所よりお答えいたします。

現在入所されている方の人数とその状況についてですが、定員は50名であり、令和3年4月現在、40名の方が入所しており、28名が尾花沢市の方となっております。12月現在、28名中1名は在宅へ戻りご家族の方と同居しております。8名は措置換えが完了し、年度内に完了予定者は4名、他市町の養護老人ホームへの措置替え待機者は10名、病院及び特別養護老人ホーム入所予定者は6名となっております。ほとんどの方は市外の施設への転出にはなりますが、継続して尾花沢市が措置を行ってまいります。

万寿荘の定員割れについてですが、令和2年度は2名の措置入所を行っておりますが、昨今、個人の求める生活の状況の変化等の理由もあり、措置入所のため

の相談や申請自体が少なくなっており、今年度の申請は現時点ではございません。また、他市町村からの申請もないようです。

次に、入居判定委員会の開催についてのご質問ですが、申請があればその都度委員会を行っております。令和2年度は2回開催しており、今年度は申請がないため行っておりません。

次に、入所に関する調査については、尾花沢市養護老人ホーム入所判定委員会運営に関する要綱に則り、入所判定審査票及び在宅サービス利用状況票に基づき調査を行っております。調査内容は、健康状態、日常生活動作の状況、精神の状況、家族・住居の状況及び在宅サービス利用状況等を総合的に勘案し、保健所長、医師、地域包括支援センター長及び老人福祉施設長で構成される入所判定委員会を開き、意見を聞き判定しております。

措置に関しては市の一般財源による措置費と利用者負担等の収入にて構成されておりますが、国、県等からの負担金等はなく、普通交付税の基準財政需要額に算入されております。

また、新型コロナウイルス感染の不安等によるものが影響で入所を拒むとの内容は確認されておられません。施設では消毒や換気など新型コロナウイルス感染症予防に、国、県のガイドラインに沿って細心の注意を払いながら施設運営を行っております。

次に、万寿荘の必要性についてのご質問ですが、これまで運営方針について何度も協議してまいりましたが、総合的に検討した結果、廃止となった経緯でございます。市としましては現在、入所者に対し措置換えを行っておりますが、新規相談や申請がある場合も、引き続き丁寧な対応を行ってまいります。

万寿荘閉所の経緯については、先ほどご説明したとおり協議を重ねてまいりましたが、徳良会の理事会、評議員会で施設の廃止について議決されたものです。

市としましては十分相談し、今回の結論に至ったものと理解しております。以上であります。

◎議長(青野隆一議員)

奥山格議員。

◎12番(奥山格議員)

多項目にわたり質問をいたしましたので、大変たくさん答弁いただきましてどうもご苦勞様でございました。それでは、各項目にわたって再質問させていただきますのでよろしく願いいたします。

まず学園構想であります。学園構想について、9月定例会でも多くの議員の方々から質問がありまして、

そして答弁もございました。その中で私なりにまとめてみますと、市内各地区の小学校を令和9年度までに1校に統合する。その建設場所は、その後中学校が何年後ぐらい後になるか分かりませんが、1校に統合される時に隣接するような広大な敷地を取れる場所に建設したいということではありませんか。また、おもだか保育園も老朽化してきているので、合わせて小学校のそばに建設したいということではないかと思われませんが、それで間違いありませんか。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

申し上げたとおりでございます。ですから小学校保育園とにかく共有できるもの、そしてうまく活用できるもの、そうやって無駄なスペースをなくしていこうと。そして限りある財源の中で立派なものを作り上げていこうというふうに考えております。

◎議長(青野隆一議員)

奥山格議員。

◎12番(奥山格議員)

その小学校と中学校、また併せて保育園を隣接させて建設するという点についてでありますけれども、子どもたちにとってどのような利点があるかという質問をしたわけでありましてけれども、教育委員会の方からは、さまざまなメリットを挙げていただいたところであります。共同で行事をやったり、学習で協力したりとか、あと「中1ギャップ」入学時の不安感の解消とか、また保育園児の方だと、小さい子への思いやりの心を育てたりすることなども期待できると、あとは学校の教員同士の連携で、専門の音楽担当教員とか、体育の担当教員が小学校にも指導できると、そういった利点があるということでありまして。

私がお聞きしたかったのは、そういった利点もあるかと思えます、確かに。あるかと思えますけれども、まず基本的に子どもたちの保育園の幼児期、また小学生の6年間、また中学生の3年間。子どもたちの成長の度合いが全く違うわけですね。幼児期の場合は本当に小さなお子さんで、だんだん小学校1年生に近くなってきて小学校に入ると。小学1年生と6年生と比べるとやっぱりかなりの違いがあるわけですね。今度中学生に入ると、中学校の1年生はまだ可愛いらしさが感じられるぐらいですけれども、卒業生の時期になると本当にしっかりしてきて、体格も立派だし、高校に入学するわけですね。そういったふうに成長の度合いが大変違います。だからやっぱり、幼児期には幼児期の育て

方、小学校には小学校の教育の仕方、中学校には中学校の教育の仕方がやっぱり分かれているわけですよ。そうすると、必ずしもその時期に隣り合ったところで、保育園なり、小学校の教育、中学校の教育を受ける必要はないと思うわけなんです。そして「中1ギャップ」とか、中学生に上がるときの不安感の解消というのは、その一時的な移行時期の問題でありますので、学校の指導の問題ではないかと思うんですけども、そういった意味で、基本的に子どもにとっては、それぞれの教育課程でそれに応じた教育が行われればいいのではないかと思いますけれども、その辺についてはいかがお考えでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

教育指導室長。

◎教育指導室長(高橋和哉君)

お答え申し上げます。隣接した学校、校舎にするにせよ、それぞれ保育園、小学校、中学校それぞれが独立した形で学校教育を行った上で、それに加えて連携を図っていく、そういうふうな考え方ですので、先ほど申し上げた「中1ギャップ」を解消するために併設しているわけでもなく、入学時の不安を解消するため、その目的だけでこういったことを考えているわけではありません。あくまでもそれぞれの学校が独立した教育を行った上で、こういった連携を図っていくというふうに考えております。

◎議長(青野隆一議員)

奥山格議員。

◎12番(奥山格議員)

分かりました。やっぱりそれぞれ教育内容が違ってくるので、独立した教育、また保育というものがなされるべきだということは、教育委員会のほうでも同じ理解だということで、考えたところであります。

次に、市民にとってどんな利点があるかという点であります。この点について市長の答弁でありますと、本市のまちづくり全体に賑わいと活気をもたらすことになります。学園構想を核としたまちづくり、学園都市構想に取り組んでいく考えであります。まちづくりという点も大事かと思っておりますけれども、小学校、中学校、保育園などは、やっぱり公共施設としても、大変大きな公共施設でありまして、大勢の方がその中で生活されるわけでありまして、そしてそういった公共施設というのは、なかなか公共事業としては、尾花沢ではないわけでありまして、そういった新築とか、改築とかということではですね。だからその公共施設のある場所というのは、すごく市民にとっても、すごく大切な

場所になるのではないかなというふうな感じがします。例えば地域住民の集会場になったり、また市役所の事業の住民への説明会の場所になったり、また運動行事の場、イベントの場、また災害時の避難所になったりする場合もあります。あとは各種選挙の投票所にもなったりしますね。そうすると、やっぱりこういったことを考えると、その公共施設のいわゆる市民にとっての使い方というか利便性というものを考えますと、やっぱり1カ所に集中してしまうと、全地区の人がそこに行かなければいけないということになってきます。1カ所に集まらなければいけない。そうではなくて、やっぱり例えば各地区で分散した形であれば、それぞれの場所で避難所として、投票所として役に立つのではないかと思いますので、ここが地域住民の利便性からいうと、この点が機能しなくなってくるという気がするんですけども、その辺についてはどのようにお考えですか。

◎議長(青野隆一議員)

建設課長。

◎建設課長(齊藤孝行君)

都市計画のまちづくり中での公共施設の適正な配置というお尋ねかと思っております。今現在、都市計画マスタープランと立地適正化計画ということで今年度の策定に向けて今策定作業を行っております。立地適正化計画のなかで、コンパクトなまちづくりというような位置付けでやっております、その中に都市機能誘導区域ですとか、あとは居住誘導区域を設定しながら公共施設も含めた適正な配置に向けた計画を策定中であります。その中でコンパクトというようなことで決して集中という形ではなくて多極的な部分も踏まえながらの適正な配置というような形で計画のほうには盛り込んでいきたいというふうに考えております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

奥山格議員。

◎12番(奥山格議員)

それではその避難所の機能、各種選挙の投票所の機能、あとは地域住民への説明会場とか住民の集会場というふうな機能というのは、どういったふうにして働かせるつもりなのか。学園構想で1カ所に集めた場合にそういった機能はどこの施設にもたせる考えなのかについてお尋ねいたします。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

確かに今奥山議員が、いろんな点で学校の活用とか

保育園の活用とあってありますけれども、まず私らが考えなくてはならないのは、利用者がどうであるかということをやまず第1番目に考えなくちゃならないと思います。保育園児と小学生がいる親御さんにとっては、1カ所へそういう形で行けるといのは非常に助かるという声もいただいております。そして現在、新しい学校がどこにできるかまだ定かではない、そういった中で、市にある公的な施設まだまだございます。そういったところをしっかりと併せて考えていって、もし方が一足りないというふうになった時には、その時には、各集落の公民館だってあるわけですから、いろんな形で活用できるものはフルに活用すると、あるものを使う感覚でいったほうが良いと思います。

これはどうしますか、これはどうしますか、それは先の話であって、今からそれを念じていろいろと考えていくものではなくて、まず大きなものをどうするかと、そこが第1番目だと思います。やっぱりこれから先について、夢を盛り込んだ形での計画を進めていかないと。じゃこれがあるからダメでしょ、これがあるからダメでしょ、足を引っ張ることを考えるのではなくて、どうしたらこれはできますかと、できる方向を探っていくのがこれからの尾花沢市にとっては必要なんじゃないですか。

◎議長(青野隆一議員)

奥山格議員。

◎12番(奥山格議員)

学校の施設、現在、尾花沢小学校、尾花沢中学校、おもだか保育園と分散して配置されているわけですが、これらの建物がなぜ避難所になるのか、なぜ投票所なんかになるのか、やっぱり建物が堅固だからであります。そして大きい建物だからでありますよね。だからそれを公民館で代替させるというのは、公民館はほんと小規模で、もちろん造りも弱いんです。そんなところは避難所になるわけないわけでありまして、だからこれの機能をどこに持たせるかという問題が次に出てくるのではないかなという気がしているところで。

その辺にとどめておきまして、あと次は財政的面からどのように考えているかということでもありますね。市長の答弁であります、統合校を1校にした場合には、各学校で整備される理科室、音楽室、特別教室なんかを格別に整備しなくてもいいので、1校にすれば建設費用が大幅に削減できると。学校を1つに集約することで維持管理経費や人件費も圧縮されますので、本市の財政面のみならずメリットが考えられます。

これはそのとおりですね、そのとおりだけれども、これは小学校を1校に統合した場合のメリット、中学校を1校に統合した場合のメリットです。ところがこのメリットのほかに、例えばいわゆる7ないし8haの広大な用地を取得しなきゃいけないと。建設用地の取得費があるわけです。あとそういった点を考えますと、現在の小学校中学校は私たちの場合は昭和39年当時には1学年で170人から180人ぐらいの生徒がいましたので、全校でだいたい1,000人前後の尾花沢小学校であったわけです。そうしますと、これから統合される小学校を考えても、まあだいたい500人ぐらいになるかどうか、全校生徒で、1,000人いた学校の用地だったわけですね、建物だったわけです。そうしますと、やはり500人ぐらいの子どもを収容するのは、当時から考えれば、もっと小さいスペースで済むような、そんなところがありますので、現在の敷地というのはかなり広いのではないかな。また新しいグラウンドも私たちの頃はなかったわけですね。そして今のプールのある所、あそこにプールがなくて、あそこがグラウンドになっていたわけです。そうすると、8反歩ぐらいのグラウンドが私たちの頃よりも増設になっているんですね。そうすると学校の用地がもっと広がってくるんです。そう考えますと、あそこの広大な用地というのは、やっぱりあそこに建てる分には十分ではないかなという感じがしております。

中学校も然りですね。あの中学校というのは、いわゆる戦後のベビーブーム世代の子どもたちが、あそこで学んだ学校でありますので、当時は、私たちの頃は6クラスあったんですね、学年で。そうすると1クラス40何人でしたので、200何十人の1学年だったんですね。そうすると合わせると700人、800人ぐらいになったんじゃないかなというふうな感じしますけど。そうすると今の生徒さんの数からすると、やっぱり半分以下ぐらいになってくるかどうか、そういうふうな感じでないかと思っておりますので、学校の規模としては十分な広さがあります。あの用地に建設すれば、用地の取得費用は全くなくなるわけですね。だからそういった点で財政面のメリット、新たに取得するよりもずっとメリットがあるところと考えるところであります。どう考えますかその辺については。

◎議長(青野隆一議員)

市長。

◎市長(菅根光雄君)

奥山議員がおっしゃることがちょっと私理解できないんですけれども、子どもの数が減ったらグラウンド

は小さくなるのか、体育館は大幅に小さくなるのか、それは違うと思います。将来的に中学校を考えた時には、現在ある中学校のグラウンドを活用することを考えれば少なくなるかもしれません。もちろんいろんなことを考えながらやっていかなければなりませんし、そして現在の小学校のところに、プールのところに校舎を建てるといったら、あそこの地形をよく見てください、西向きになりますよ。西向きの校舎になってきませんか。暑い中での授業という意味じゃなくて、尾花沢市内の小学校を見ますと南向きになるようにしたり、いろいろ考えて作られています。ですから、土地がそのところプールを壊せばここに建てられるのではないかだけでは済まないと思います。

それからもう1つは取り付け道路です。スクールバスが各全域から来るということ考えた時に、学校へ入るところが大変な状況になっているわけです。あそこでバスがすれ違うことできるかどうか、子どもたちの安全通学を考えた時に、あのままでいいとは絶対ならないと思います。ですからいろいろなことを考えてですねやっていって、たぶん奥山議員の考えで言えば歴史の認知はいらぬという考え方だと思いますけれども、地域のそういったまちづくりもそこまで考えなくたっていいから、学校はあそこへ建てろということなんだと思いますけれどもね、それで地域が良くなるんだったらいいです。でもまだまだ生徒の人数が何人になるか固まっていない状態の中で、学校の議論がどうだ、グラウンドはこうだというのは、ちょっとまだ拙速であるというふうに判断いたします。ですから、もちろん私たちが広大に求めればいいというものじゃありません。必要最小限に食い止めていくということも考えていかなければならないですし、限りある財源の中でやっぱりやっていかなければいけないと。いろんな事業に取り組まなければならないわけですから、その中で財源をどうするか、それに今できるだけ力を注いでいくという形で考えています。

◎議長(青野隆一議員)

奥山格議員。

◎12番(奥山格議員)

学園構想についてはこの辺にとどめたいと思います。あと米価の下落に対する農家の支援策であります。これにつきまして、各市町村でやっぱり農家が次期作付けが大変なんでないか。これでは農業継続する農家が少なくなってくるのではないかっていうことで、続々農家の支援策を上げております。その中で、作付面積10a当たり1,000円を支給するところが、私の調

べたところだと高畠町、南陽市、長井市であります。あと10a当たり2,000円を支給するということでもありますけれども、寒河江市、新庄市、飯豊町、小国町、白鷹町、河北町となっております。それ以上の3,000円を支給するということも出てきています。最上町、舟形町、鮭川村であります。こういうふうに農家大変だと、やっぱり1,000円よりも2,000円、3,000円しないと、農家の窮状は救えないのではないかというふうなことで、この支給金額がだんだん増えてきております。この辺について、今の農家2,200円の減収、昨年度よりも減収となっています、はえぬき、あきたこまち、ひとめぼれ、そういった米を作っている農家についてもう少し支援をしていただけないかについてお尋ねいたしたいと思います。

◎議長(青野隆一議員)

農林課長。

◎農林課長(岸栄樹君)

ただ今のご質問については、最終日に上程を予定しているもので、先の全員協議会で市の考え方、方向性をお話をさせていただいた内容でございます。現在のところ財政状況、近隣の自治体との整合性もとりながら制度設計のほうをさせていただいたことは十分説明させていただいたと思っております。なにとぞ議会最終日に提案された時にはぜひともご可決のほうをお願いしたいということで上程を準備させていただいております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

以上で、奥山格議員の質問を打ち切ります。ここで15分間休憩いたします。

休憩 午後3時00分

再開 午後3時15分

◎議長(青野隆一議員)

再開します。この際申し上げます。本日の会議は時間を延長しますので、あらかじめご了承願います。

次に、8番 鈴木裕雅議員の発言を許します。鈴木裕雅議員。

〔8番 鈴木裕雅 議員 登壇〕

◎8番(鈴木裕雅議員)

まず初めに、災害時の情報管理について伺います。

地震や豪雨・豪雪などの自然災害が頻発する昨今であります。国や県、近隣自治体との協力により災害を乗り越えています。災害発生時には情報の共有を行うことが大切と考えますが、市外部と情報共有するた

めの共通フォーマットは存在するのでしょうか。住民や市外部へ伝えるために、また情報を受けるためにもフォーマットの作成が必要と考えますがいかがでしょうか。

次に、農業補助について伺います。本市農業補助は手厚い体制であると思います。しかし、さらなる農業振興が期待され、今後も新たな農業団体の設立や新規就農が見込まれます。財源の関係から上限金額が低く設定され、多岐に活用が可能な補助が多いように感じられます。その中でも今後スマート農業分野の成長が期待されていますが、上限額は50万円に設定されています。機械本体に対する補助はありますが、色選機を使うためにはコンプレッサー、ドローンを使うためには予備バッテリーが必要とされ、国や県の補助でもこれらの周辺機器類はカバーされていません。今後周辺機器類に対する補助が必要ではないでしょうか。

次に、ごみ処理基本計画について伺います。老朽化した一般廃棄物処理施設は、延命化や経費の抑制を図ってきましたが、令和3年6月11日に公布され、令和4年4月1日に、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律、いわゆるプラスチック資源循環法が施行予定となっています。今後のごみ処理計画を見直す時期ではないでしょうか。

次に、中央診療所の今後のあり方について伺います。あり方検討委員会での議論が進んでいるとの報告を議会としては受けていますが、明確な今後のビジョンがまだ見えてきません。先日次期市長選への決意を新たにされた市長として、今後の中央診療所のあるべき姿をどう考えているのかお示してください。

次に、危険家屋所有者に対する対策について伺います。危険家屋がまだまだ点在しています。除却に対する助成も整備され、万全ではまだありませんが、取り組みは進んでいると評価できます。しかし、近所から苦情が寄せられるケースもあり、対策が急がれます。危険家屋には所有者がおり、所有者には所有権があります。所有者には管理する責任もありますが、所有者責任とは何かをお伺いします。

◎議長（青野隆一議員）

市長。

〔市長 菅根光雄 君 登壇〕

◎市長（菅根光雄君）

ただいま、鈴木裕雅議員より大きく5点についての質問いただきました。順次お答えさせていただきます。

初めに、災害時の情報管理についてです。本市では、災害に備え計画的に各種備蓄品の確保を進め、災害備

蓄データベースとして情報を管理し、ストックマネジメントに努めています。

災害時においては、市独自で物資の確保が困難となる場合も想定され、協定締結団体や関係機関から調達することとなります。必要な物資に関する情報が一元的に管理され、情報共有がなされることは非常に有効です。

国では、全国の自治体の物資拠点や避難所までの物資の供給ステータス情報を把握のうえ、一体的に管理・情報共有することができるよう、国が主体的に調整する目的の「物資調達・輸送調整等支援システム」を開発し、令和2年度から運用しています。同システムを活用することで、これまでは電話やメール・FAX等でやりとりをしていた物資・輸送に関する情報を、インターネット上で国・県・市町村が情報共有し、被災地のニーズに沿った適切な物資調達が可能となります。

また、現在、山形連携中枢都市圏では、備蓄物資等の情報共有事業の検討が進められています。災害時に物資調達が必要となった場合、物資を確保するまでには相当の時間がかかることから、あらかじめ提供可能な備蓄物資の情報を圏域内の各市町で共有し、自治体間で必要に応じて物資を融通できる体制を作ることで、より迅速な災害対応が図られるものです。

今後は、災害時でも円滑な物資調達が図れるよう、国の物資調達・輸送調整等支援システムの適切な運用に努めるとともに、山形連携中枢都市圏における備蓄物資等の情報共有事業の検討作業を進めてまいります。

次に農業補助についてです。今年度から市単独で「儲かる農業支援事業」をスタートしました。これまでの支援内容をブラッシュアップし、夏スイカ生産量日本一である尾花沢スイカの産地振興と、土地利用型農業推進のためのスマート農業技術の導入に特化した事業に組み替えました。

尾花沢スイカの産地振興策では、農業用機械本体に限らず、成形機やロータリ、マルチ張り機など各種アタッチメントも支援対象としています。また、井戸掘削や灌水設備など条件整備に係る費用も対象としており、夏スイカ生産量日本一を維持できるよう生産基盤の強化に向け幅広く支援してまいります。

一方、スマート農業技術普及対策では、近年、農薬散布用ドローンや直進アシスト機能付きの田植え機など、稲作を中心にスマート農業機械の導入要望が増えています。スマート農業技術はまだ普及途上にある段階であり、まずは、要望の多い機械本体の導入を優

先的に支援しています。

今後とも、市単独の儲かる農業支援事業は、刻々と変わる営農体系に応じて、生産農家に必要とされる事業となるよう検討を重ね、儲かる農業へ結びつけられるよう対応してまいります。

次に、ごみ処理基本計画についてですが、現在の「ごみ処理基本計画」は、平成31年3月に策定しております。現計画ではプラスチックごみは燃やすことで計画されておりますが、今年6月に公布された「プラスチックに係る資源循環の促進に関する法律」を受け、プラスチックに関して、全国的に資源化に向けた取り組みの推進が強化されます。

「ごみ処理基本計画」は、目標年次を15年後の2032年度（令和14年度）としています。計画の見直しは、概ね5年毎又は大きな変動があった場合としていますので、プラスチックのリサイクルという大きな変動が見込まれることや、計画策定から5年後となることから、令和5年度に見直しを図ってまいります。

また、ごみ処理施設更新については、令和2年12月に策定した「循環型社会形成推進地域計画」に基づき、準備を進めていますが、法施行前の地域計画であることから、プラスチックごみは燃やすことを前提とした内容であっても、交付金の交付を受けることは可能となります。しかし、新たに建設する施設が老朽化し、長寿命化等で大規模な改修が必要となった場合、現在の地域計画では、交付金を活用することができなくなる可能性もありますので、国の方針に基づきプラスチックごみのリサイクルを考慮した地域計画の見直しについて、市・町・環境衛生事業組合で協議を進めてまいります。

次に、中央診療所の今後のあり方についてお答えいたします。

中央診療所は昭和56年に開所して以来、市内唯一の有床診療所として、入院機能や訪問診療、訪問看護などの在宅医療機能、また、終末期医療など、民間の開業医では対応できない入院から在宅までの切れ目ない医療の提供を行ってきました。

しかし、人口減少や医療環境の変化に伴い患者数は減少し、一般会計からの繰出金が年々増加していることから、令和元年11月にあり方検討委員会を立ち上げ、診療所の将来ビジョンを明確化するために検討しているところです。これまで3回にわたり委員会を開催し、その間、医療コンサルタントからの経営分析や市民アンケートを実施してきました。

市民からは、在宅医療の充実を望む声が寄せられ、

高齢化が進む中、市民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、これまで以上に訪問診療や訪問看護などの在宅医療に力を入れると共に、中央診療所の特徴である入院機能をもっと有効活用していきたいと考えています。

また、限られた医療資源の中で地域医療を維持していくためには、広域的な視点に立ち、医療機能の役割分担と連携強化を進めていかなければなりません。

例えば、中央診療所では、身近な1次医療機関としての診療を行いながら、高度医療へスムーズな橋渡しを行い、公立病院からは、救急医療や急性期医療等の高度医療を担っていただく。また、公立病院での急性期医療を終えた回復期の患者を中央診療所が受け入れることで、退院後すぐに自宅に戻れない人の受け皿となり、入院機能の有効活用も図れます。その後、自宅に戻った場合も訪問診療や訪問看護によりフォローすることで、切れ目のない医療サービスを提供できます。

このように、公立病院との役割分担や連携強化を行うことで、北村山地域の医療機能の分担が図られ、北村山地域全体の医療圏における円滑な医療サービスの提供が可能になり、医師や看護師等の医療スタッフの人的体制の充実も図られるものと考えています。

公的医療機関としての役割は、どこに住んでいても必要な医療を安定的かつ継続的に提供し、市民誰もが安心して医療サービスを受けられる市民の命を守る砦であると同時に、北村山地域全体の医療を担う役割もあるものと考えています。

人口減少に伴う患者数の減少や診療収入の減少など、医療を取り巻く現状は厳しさを増しておりますが、市民の命を守るために、また地域医療を守るため、公立病院と北村山地域の広域的医療体制を構築していくための協議を進めてまいります。

診療所の建て替えについては、今後の診療所の方向性が決まれば、具体的な診療機能の検討が必要ですが、それに合わせた施設整備が必要になってきますので、今後、その段階において、場所も含め検討していくことになると考えています。

次に危険家屋所有者に対する対策についてですが、第一に、空き家に限らず、すべての建築物の所有者はその管理責任を負うことから、隣家や周辺に危険を及ぼさないよう努める義務があります。

本市では、毎年度、すべての空き家所有者に対し、空き家の適正管理に関する依頼を文書で通知しており、今年度も11月19日に通知したところです。また、地域から相談・苦情のあった管理不全空き家については、

随時、文書や口頭により適正な管理を要請しています。そのほか、利活用可能な空き家の所有者に対しては空き家バンク制度への登録をお願いするとともに、老朽化した空き家所有者に対しては、不良住宅除却促進事業補助金の案内を送付し、住宅の解体を促しています。

空き家の特性として、所有者の居所が市外・県外の場合も多く、居所調査についても、固定資産課税台帳、土地・建物登記簿、戸籍などの基礎的な調査のほか、所有者が法人である場合は法人登記の調査も必要となります。また、相続手続きがなされず、権利者が複数名存在する場合には、親族関係図を作成する必要もあり、調査に相当の期間が必要になります。

所有者が文書での要請に応じない場合、近隣市町村にお住まいの方については訪問による対面交渉を実施することもあります。また、県外、特に遠方にお住まいの方については、対面での要請が難しいことも課題です。

当市から通知を行った方々や要請した方々のうち、一部の方々からは相談をいただき、空き家バンクへの登録、修繕・除却作業が進められるなど、効果も表れています。しかし、相続放棄や所有者が所在不明となっている空き家、再三の要請に応じない管理不全空き家もあり、対応に苦慮しているところです。要請に応じないケースには、「経済的な問題から解体できない」、「親族間で相続に関するトラブルがある」、「相続放棄したいが手続きが出来ない」、「そもそも自身の所有物という認識が無い」など、多種多様な要因があり、ケース毎に対応の方針も異なります。

法的な問題がある場合には、市顧問弁護士とも相談させていただきながら対応を進めている状況です。

今後の対策として、再三の要請に応じない管理不全空き家については、空家等対策特別措置法に基づく措置を進めるとともに、相続放棄や所有者が所在不明となっている空き家については、相続財産管理人選任申立制度、及び不在者財産管理人選任申立制度の活用を図るなど、事例毎に適切な対応を進めていきます。

課題としては、行政代執行により解体がなされた場合の解体費用の回収もありますが、空き家を放置しても市が解体処分してくれるといった認識が広まるなどモラルハザードの問題が誘発されないよう、対策の実施にあたっては慎重に進めていきます。

以上、答弁とさせていただきます。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

では順次自席より再質問させていただきます。

まず災害時の情報管理についてでありますけれども、国のほうで、輸送調整支援システムを令和2年から運用しているということでありました。また山形連携中枢都市圏における備蓄物資等の情報共有事業の検討作業を今後進めていくということでありまして、この検討作業というのは、こういった部分を検討されていくのでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

防災危機管理室長。

◎防災危機管理室長(小埜和広君)

災害時の情報管理関係について答えをいたします。山形連携中枢都市圏につきましては、村山地域の山形市をはじめとする7市7町の枠組みで実施しておりまして、何か連携できる事業はないかということでもさまざまな検討項目がございます。この中の1つが備蓄物資等の情報共有事業であります。検討事務局につきましては、山形市さんが担っていただいております。先般、関係市、町から提供できる物資のリストを提出をさせていただいたところでございます。これを山形市さんのほうで取りまとめていただいております。情報共有をするということで、毎年度備蓄量も変わりますので、毎年5月あたりにその情報を更新をした上で共有をしていってはどういうような検討がなされている状況でございます。また国のこのシステムとの兼ね合いも検討課題として取り上げられておりまして、この中でさらに検討が高められるものかと承知しているところです。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

私は、提案のつもりで今回質問したつもりだったんですけれども、私の調べ方が甘くてですね、国によるものであったり、連携中枢都市圏の中での議論がここまで進んでいるというのは非常にうまく話を進めてくださっているなという気持ちであります。こういった、山形市が中心になって連携中枢都市圏のほうは事務的なことをしてくださっているようなんですけれども、尾花沢市としましては、宮城県大崎市、宮城県加美町、大石田町および尾花沢市におきまして、国道347号線沿線での災害時の総合応援に関する協定も結んでおりますので、ぜひこういった協定の中にもですね、県境を跨ぐものもありますので、フォーマットを活用していれば一番いいのではないかなと思いますが、ご検討いただけますでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

防災危機管理室長。

◎防災危機管理室長(小 埜 和 広 君)

今後とも連携中枢都市圏の事例を参考にさせていただきまして、そういった枠組みでの検討もしていきたいなと思っておりますが、昨年度の令和2年7月豪雨の際等においても、担当室として感じたところなんですけれども、どここの町で備蓄物資を持っているからといって、容易にこう要請というのはやっぱりはばかれるところです。昨年度4月の雨の時、大石田町においては大変な状況になっておったんですけれども、その際も市長から、大石田町の状況、不足なものがないか確認せよというような指示のもと確認したところ、たくさん不足があったようでございます。アルファーマイ米や毛布などを提供させていただきました。こういった非常時に、お互いに連携がとれるように、相手が何をいくら持っているかだけではなくて、普段からこう何か大変な状況ではないですかと、何か不足していませんかと声かけできるような関係づくりも大事なかなと思っておりますので、その点も留意して進めたいと思います。

◎議 長(青 野 隆 一 議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴 木 裕 雅 議員)

私は、令和2年9月の時にですね一般質問だったと思うんですが、この災害に関する質問させていただいたことがあります。その時にも大石田町のほうにボランティアに行かせていただいたという経験から、現状はなかなか大変であると。大石田町のほうでも、図上訓練はしてあったけれども、実際にそのボランティアセンターを立ち上げて、支援物資を受け入れて、支援しながら災害の復興にも立ち向かうというのは、なかなか時間もかかるし、手もかかることだということを目で見て感じたところでありました。ですので、そういった経験がある方が、尾花沢市であれば社会福祉協議会のほうで経験しておりますので、そういった方々の話をもう一度聞いていただいて、今後の計画づくりに役立てていければなと思います。災害が無いのが一番ですけれども、災害にはやはりこれから十分な備えが必要だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

次に移ります。農業補助に対する部分ですけれども、農業補助の中で、本市におきましては、尾花沢市儲かる農業支援事業を打ち出させていただいております。これは尾花沢市独特の農業補助でありまして、よく考えていただいて、農業者のことをよく見てくださってい

るんだなというふうな感じがいたします。菅野修一議員の前回の一般質問の中でも、土地利用型の農業の部分が出てきましたけれども、その答弁の中で国が行うべきもの、行政が行うべきもの、あとはまあ事業者、農業者個人が行うべきものに分けて考えなければならないという答弁があったと思います。その中で、個人・事業主が行わなければならないものの中に、農作物の品質を向上させるというものがあると思います。農作物の品質を向上させるための支援が、この尾花沢市儲かる農業支援事業であるのかなと思っておるわけですけれども、こういった支援を使うためにですね、皆さんやはり勉強しなければならないです。農業者の方がですね、みんなが、この今農林課からいただいた支援事業の概要でございますけれども、みんなが理解をして、みんなが覚えているわけではありません。こういった支援事業、本当は農業者皆さんからぜひ使っていただきたい良い支援なんですけれども、なかなか普及しないというのが現状かと思っております。この普及させるにあたって、農林課さん一生懸命普及にあたってくださっていると思いますが、今後何か方策はありますでしょうか。

◎議 長(青 野 隆 一 議員)

農林課長。

◎農林課長(岸 栄 樹 君)

ご提案ありがとうございます。基本的には関係機関と協働いたしまして、これからはやはり現場での営農指導と、あとは農業者に対する、米で言えば栽培暦ですとか、農薬の使用状況等々ですかね、そういうものの普及と、あと現場での指導というものを、もう少し力強くと言いますか、手厚くしなければいけないのではないかなというふうに思っております。その最たるものが、今年度の稲作の結果でございます。この冬で関係機関とともにですね、一回膝を交えて次期作に向けた対応について、特に営農指導に向けてなんですけれども、話し合ってみたいというふうに思っております。

◎議 長(青 野 隆 一 議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴 木 裕 雅 議員)

大変失礼いたしました。営農指導を行ってくださるということですが、米に限りまして、一等米比率を上げるという取り組みが一番の近道であるかなと思います。一等米比率を上げるためには、栽培の管理が一番大切です。次に大切なことが、出荷する前に製品検査をすること、どの業界でも一緒ですけども、

製品検査をするということが大切になってきます。その出荷検査をする時に、今有効とされているのは色選機、光選別機って言うんでしょうか、選別機があります。この選別機を導入するための支援事業はあるわけですが、この機械というのは単体で動くことが出来ません。空気、エアーによりまして、エアコンプレッサーで選別した米粒を弾き飛ばすというような作業がありますので、周辺機器が必要になってきます。こういった周辺機器というのは、国や県の補助事業ではなかなかメニューの中にありませんので、今後で結構です、今後こういった国や県の補助から漏れている部分を、尾花沢市がどうか担っていかねければならぬのではないかなと考えているわけですが、今後答弁の中にも、機械本体の導入を最優先で進めていただくということですが、ある一定期間進みましたら考えていただけますでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

農林課長。

◎農林課長(岸栄樹君)

先ほどの市長答弁にもありましたとおり、市単独事業につきましては、今の制度も完成形とは捉えてございません。時代の流れとともに、制度についてもブラッシュアップをさせていただきながら進化をしていくものというふうに農林課のほうでも捉えてございます。その中で、国・県の支援策につきましては、どうしても本体の支援はありますけれども、周辺機器を導入する際の支援というのはないわけです。かゆいところに手が届くというわけではございませんけれども、そこを補っていくのが市単独事業であって、尾花沢市の農業経営者を守っていくこと、向上につながるということに捉えてございます。今のところスマート農業技術の導入機器につきましては、今現在本体の導入に力を注いでいるところで、まだまだちょっと汎用性には乏しいのかなというふうに思っております。本体導入の際に、周辺機器も同時に導入するのであれば、当然合算して事業申請をいただきたいと。さらに汎用性が広まりまして、次々と新しい機械を導入する際の周辺機器の導入についても検討していかねばならない時期がきっと来るのであろうというふうには想定してございます。以上でございます。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

今のような課長からの答弁を、ぜひ農業者の方に本当に聞いていただきたいなというふうな思いがあるわ

けですけれども、なかなか皆さん聞いてくださいませんので、農業者の方に説明するのももちろん大切なんですけれども、農業者が購入する方たち、メーカーさんだったり取扱業者さんだったり農協さんなどもそうなるのでしょうか。そういったその取り扱いをされている方たちに、こういった農業補助を説明、勉強を含めてしていただき、取扱店さんのほうから購入を希望する農業者の方へさらに説明をしていただく、不明な点があれば農林課のほうに問い合わせをしていただく、このような流れができ上がれば、こういった農業補助も今よりも更に有効に活用していただけるのではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

農林課長。

◎農林課長(岸栄樹君)

鈴木議員のほうから大変使い勝手の良い制度になるような提案を頂戴したというふうに思っております。今現在でも取扱店からの個別の対応というのがございまして、その都度制度のプリントなどを準備しながら周知はさせていただいておりますけれども、一同に会した説明会というものは今まで開催したことはございませんでした。開催に向けて調整を図ってみたいというふうに思っております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

前向きな答弁をいただきました。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

次に移ります。ごみ処理基本計画についてであります。平成31年(2019年)から15年後の令和14年度(2032年度)までの計画がごみ処理基本計画になっております。5年毎の見直し、または大きな変動があった場合に、これを見直すという規定が中にもございます。今回はプラスチックに関する部分、循環法というのがありまして、そちらのほうが出されたために、大きな変動と捉えて改変をしてくださる、見直しをしてくださるようでありまして、令和5年度の見直しで、ごみ処理の建設計画に影響は出ないんでしょうか。前倒しして計画を見直す必要があると思うのですが、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

環境エネルギー課長。

◎環境エネルギー課長(本間孝一君)

ごみ処理基本計画でありますけれども、収集処理方式等が関連することから、市・町・環境衛生事業組合

三者で協議しながら作成しているものであります。市・町・環境衛生事業組合三者で協議しまして、令和5年度としたところでありまして、新たなごみ処理施設に影響はないかということではありますが、今のところ影響があるとは考えておりません。今後も協議してまいりますけれども、もし支障が出るようであれば、早めの改定も視野に入れながら進めたいと思います。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

鈴木由美子議員の一般質問の中でも、市・町・環境衛生事業組合で協議を進めていくというふうな答弁、私のほうにもいただいております。もちろんこの三者が中心にならなければならないわけですが、環境衛生事業組合の管理者は市長であります。尾花沢市の考え方というのが一番強く反映されるのかなと私は思っておりますし、環境衛生事業組合での話ではこのごみ処理基本計画というのは、尾花沢市のものと大石田町のもの両方ございます。このゴミ処理基本計画を見直しをすることが、新しい焼却炉を建設するに向かう第一歩なのかなと思っております。循環型社会形成推進地域計画、こちらもございます。こちらの準備を進めていただいておりますけれども、この地域計画とごみ処理基本計画、ごみ処理基本計画のほうが上位計画であるように感じます。上位計画のほうから見直しをしないと、地域計画のほうは見直しできないのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

環境エネルギー課長。

◎環境エネルギー課長(本間孝一君)

確かにごみ処理基本計画というのが上位計画になるかと思っております。ただ循環型社会形成推進地域計画に関しましては、常時変更が可能ということですので、まずはできるものから率先して変更はしていきたいと考えております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

計画を変更することが目的ではなくてですね、ごみ処理焼却場ですね、焼却場を新しく建設しなければならないということが目的になっています。答弁の中にもありましたけれども、現在の地域計画のままでも建設は可能であると。可能だけれども、建物を直さなければならない時、修繕しなければならない時に交付金

を得ることは難しい可能性があるという答弁でありました。そうであるならば、二択に見えますけれども実は一択なんじゃないかなと思います。プラスチックを燃やすことは許されない、国の方針であるのかなと。見えない鎖で縛られているようなお気持ちではありますが、世界情勢もそうです。日本情勢も。プラスチックはもう燃やさない、ゼロカーボン宣言を尾花沢市いたしました。それに則りまして、やはり計画を見直す方針を、もう燃やさないんだという宣言をやはり出すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

環境エネルギー課長。

◎環境エネルギー課長(本間孝一君)

やはり国の方針というのは、プラスチックはリサイクルしていくという方針であります。先日、12月6日に市・町・環境衛生事業組合の担当者によります検討会のほうを実施したところであります。その中では、市・町・環境衛生事業組合ともに国の方針に基づいて進めていくということで意見が一致したところであります。今後につきましては、環境衛生事業組合の幹事会、さらには議会等でも説明し方針のほうを決定していきたいと考えております。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

この件に関しましては、私は環境衛生事業組合の議員も務めさせていただいておりますので、引き続きこちらのほうでも議論をしていきたいと思っております。

次に移ります。中央診療所の今後のあり方についてであります。市長が考えていらっしゃる今のその考えの一端が答弁によって示されたのかなというふうに思っています。中央診療所は尾花沢市が運営に関わる公立の病院であります。公立の病院の姿というのが市長の答弁にあった、「民間の開業医では対応できない入院から在宅までの切れ目ない医療の提供」この部分が公立としての役割であるのかなと思う次第であります。この切れ目のない医療を提供するためには、経営もそうです。病院のあり方というのが大きく問われてきます。患者数も減少しており、一般財源からいくらかでもお金を送り出して使えるというわけでもありません。そういった中、ジレンマがあるわけですが、尾花沢市民の命を守る砦であって、市民誰もが医療サービスを受けられる中央診療所。しかし、現実には患者数の減少により財政を圧迫しております。このために、北村山地域全体の患者を受け入れなければならない。医療

としてはもちろん受け入れを拒むことはなく受け入れなければならないわけですが、市民の命を最優先で守るべき中央診療所に、他の地区の方も受け入れなければならない、なかなか難しいところがあります。この北村山地域全体の患者の受け入れに関して、急性期医療を終えた回復期の方を迎え入れるということでもありますけれども、急性期の医療を終えた回復期の方というのは、どういった症状の方なのかご説明をお願いします。

◎議長(青野隆一議員)

中央診療所事務長。

◎中央診療所事務長(永沢八重子君)

急性期を終えた患者というのはどういう方というご質問でありますけれども、急性期医療の方は、主には手術を終えられた方、そういった方が一旦その症状は回復されましたが、特に高齢者でありますと、すぐに自宅に戻るということはまだちょっと難しいというような場合には、回復するまでといたしますか、そういった形で入院していただいて、ある程度リハビリなどもやれるような中で、回復をされる患者を受け入れられるかなと思っております。ですので、今後はやはりそういうリハビリなどもできるような体制も整備していかなければいけないのかなと思います。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

手術を終えて、そのご家庭の事情にもよりますけれども、すぐには家庭に戻ることができない方が回復するまでの間という答弁でありました。病気の末期の方ではなくて、回復期の方ということでよろしいですか。

◎議長(青野隆一議員)

中央診療所事務長。

◎中央診療所事務長(永沢八重子君)

回復期の方については、そういった場合もありますし、残念ながらちょっと回復が見込めないというような場合につきましては、終末期の医療ということで看取りといったそういったところの医療も担っていきたいと思っております。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

先日大類議員からも、中央診療所のあり方については議論がされましたけれども、もう一步、大類議員には踏み込んだ部分をしていただきたいなど。ただ私が思っている踏み込んでいただく部分とは違う部分に大

類議員は踏み込んで議論されていたのかなという思いがあります。この中央診療所に関しましては、あり方検討委員会で今まさにあり方を検討している最中でありまして、そこに市長が思うようなビジョンを乗せていただいて、今後どういった展開になっていくか、我々があり方検討委員会の答えを待つような段階でありますけれども、私たちの中にも中央診療所こういうふうになっていったらいいなという思いがやはり強くあります。市民の方にも、もっとこういう場所があったらいいな、こういう診療科があったらいいなという思いが皆さん多くありますので、ぜひそういった声も反映していただいて、中央診療所の今後のあり方を明確なものにしていただきたいなと思います。この中央診療所のあり方、場所に関しましては、建て替えについてはその時期が来たらということでありましたけれども、私は本当は市長がかたる都市構想なんかに関わってくるのかなと、そういった部分の答弁がもしかしたら聞けるのかなという思いもありましたけれども、時期が来たらお示しいただきたいと思います。市長から一番最後の一般質問ですので、うまく締めろと言われても、なかなか締められないまま最後の5番目の危険家屋所有者に対する対策に移りたいと思います。

空き家対策に関しましては、尾花沢市は近年はすごく前に進んだんじゃないかなと感じています。除却に対する助成を新たに導入してくださったりですね、実績もかなりの数があるようであります。しかしながらまだまだ危険家屋というのが存在するのが現状です。除却もですね、小学生や中学生の通学路、または通勤に使うような主要な道路の場合ですと、除却対象として認められる可能性は大きいわけですが、そこから外れる場所というのは、なかなか対象に選ばれないのが現状であります。今後そういった場所に危険な家屋が増えないことが一番望ましいわけですが、そういったその危険家屋を尾花沢市が行政代執行により解体するのは簡単なことだと財政的には思います。しかし、答弁にあったように、放っておくと尾花沢市は勝手に解体してくれるんだって、お金払わなくていいんだって、そう思われるのが私も一番怖いんです。ですので、行政代執行というのは取るべき最後の手段でもありますけれども、なかなか踏み切れない部分であると思います。この行政代執行を行う前にも、さまざまな手続きがあります。そのさまざまな手続きの中で一番大切なのが、所有者だったり管理者を特定することが一番大切なのかなと思います。ここが一番

苦勞されている部分ではないかなと思います。連絡が取れるというのは、まだ相手が見えるわけですから、まだいいわけですが、誰に連絡を取ったらいいかわからない。しかし住民からは苦情が出て何とかしてほしい。その板挟みになってしまうというのは、所有者、管理者がやはりはっきりしていない場合なのかなと思います。そういった管理者がはっきりしていない危険家屋というのは、通告しておりませんので、何件ぐらいあるんでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

防災危機管理室長。

◎防災危機管理室長(小埜和広君)

お答えいたします。市内で空き家実態調査につきましては、330件ほどの空き家を把握してございますけれども、そのうち所有者が明らかでないものの件数については、ちょっと取りまとめたものはございません。ただ所有者が存在しない空き家につきましては、自主的な管理を促しようがありませんので、こういったものについては、行政代執行、略式代執行というような形で進んでいくしかないのかなという部分になってまいります。ただし、一例を申し上げますと、よくよく調べてみますと、所有権は亡くなった人のものになっているんですが、所有権以外の例えば根抵当権などの設定があるものもあり、今現在動いている事例でも、そういったものをどうしていくかっていうことをちょっと検討したりもしています。また所有者のおられる方、この世にまだ存在されている方につきましても、問題となっているのは、やはりその再三の要請にも応じていただけないというようなケースになっています。むしろこのほうが、我々としてはなかなか手強いというところで捉えておまして、そういった部分についてはとにかくお願いするしかないというような状況で、この空き家等対策計画を策定以降4年間努めてきたわけですけれども、もうこれ以上限界なのかなというところもあります。今後はやはり行政代執行に迷わず踏み切って舵を取るしかないケースも出てくるのではないかなと思っています。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

行政代執行というのは、行政が取るべき最大で最後の手段であります。私の耳のほうには、地域によって何カ所かですけれども、地域の中で解体を手伝うから、ぜひ橋渡しをしてほしいというふうに言われている場所もございます。そういった方たちは、自分たちは手

弁当で、危険を地域の中から取り除きたいんだと思ってくださっている方たちもいらっしゃいます。しかし所有者がどこにいるか、地域の人でさえ分からなくて、手をつけられないという場合が何カ所かございます。そういった場合、地域の申し出があった場合には、所有者、連絡の取れる方に行政として連絡は取ってくださるのでしょうか。

◎議長(青野隆一議員)

防災危機管理室長。

◎防災危機管理室長(小埜和広君)

お答えいたします。地元のほうが、一番その周辺の方々が一番心配しておられると当然認識しております。所有者の情報につきましては、先ほど市長から申し上げたとおり、さまざまな基本的な基礎調査を行った上で特定しているところで、特定される場合もあります。その方の了承を得た上で、その対応をしていきたいという地元の方と、マッチングではないんですが、連絡調整の役を市のほうで行うということは可能であるなと思っています。以上です。

◎議長(青野隆一議員)

鈴木裕雅議員。

◎8番(鈴木裕雅議員)

マッチングという言葉を使おうかどうか迷っていて、私は使わないで説明しようかなと思っていたところでした。なかなかなんていうふうに表現したらいいかわからないので、ニュアンス的にはマッチングなんですけれども、仲を取り持つという言い方がいいのかなと思います。そういった申し出、ぜひこれから相談させていただこうと思いますので、所有者・権利者・管理者の方とぜひ連絡を取っていただいて、行政代執行できればなくて済むような体制づくりを共に進めていければと思います。行政と議会がともに解決策を見つけていくことこそが、我々に託された使命でありますので、今後も議論を進めていきたいと思っています。以上で私の一般質問を終わります。

◎議長(青野隆一議員)

以上で、鈴木裕雅議員の質問を打ち切ります。

これにて一般質問を終結いたします。

暫時休憩いたします。

休憩 午後4時06分

再開 午後4時08分

◎議長（青野隆一議員）

再開いたします。

次に、日程第2、令和3年請願第6号「沖縄戦戦没者の遺骨混入土砂を埋立てに使用する計画の中止と、政府が主体となって戦没者遺骨収集を実施することを求める意見書の提出に関する請願」を議題といたします。

この際、産業厚生常任委員長の報告を求めます。産業厚生常任委員長。

〔産業厚生常任委員長 小関英子 君 登壇〕

◎産業厚生常任委員長（小関英子議員）

今定例会において、当委員会に付託されました請願1案件、「令和3年請願第6号沖縄戦戦没者の遺骨混入土砂を埋立てに使用する計画の中止と、政府が主体となって戦没者遺骨収集を実施することを求める意見書の提出に関する請願」について、その審査の過程と結果についてご報告申し上げます。

当委員会は、去る12月9日に委員会を開催し、紹介議員の出席を求め、慎重に審査を行ったところです。

本案件については、沖縄戦での悲惨な地上戦により、多くの貴い命が失われ、沖縄の土となっています。糸満市摩文仁を中心に広がる南部地域は、沖縄戦の激戦地となった地域であり、同地域には、犠牲を強いられた沖縄県民や命を落とされた兵士の遺骨が数多く残されており、戦後76年が経過した今でも、戦没者の遺骨収集が行われています。

2016年に施行された「戦没者遺骨収集推進法」は、遺骨収集を国の責務と定め、2024年までを集中実施期間として位置付けており、2021年4月には、陸軍歩兵32連隊所属の兵士の遺骨がDNA鑑定で遺族の元に帰されました。

沖縄戦犠牲者の遺骨の眠る沖縄本島南部から、土砂を採取し、埋立てに使うことは、犠牲者の人々の尊厳を冒瀆し、「物言わぬ」戦没者を二度殺すようなもので、人の道に反する行為であり、このことは、戦没者の尊い犠牲の上に平和を享受してきた私たち全国民が当事者意識をもって向き合うべき課題であります。

以上のことから、戦没者の遺骨等を含む可能性のある土砂を埋立てに使用する計画の中止と、法律を遵守し、政府が主体となって戦没者遺骨収集を実施し、遺族の元に帰すことを求め、国会及び政府、並びに関係機関に対し意見書の提出を願うものであります。

委員からは、「請願には2つの願意があるが、遺骨収集については法律も整備されており、国の役割が明確化されていることから、政府が主体となって遺骨収

集を進めていくことについては、願意妥当だと思ふ。しかし、一方の土砂の埋め立てについては、願意の中で「可能性がある土砂」や「使用する計画」という記載になっており、何の計画を中止するのかなど、請願としての具体的な内容が不足している。」との意見や、「戦後76年が経過し、戦没者の遺骨収集が完全に終わっていない状況で、政府が主体となって遺骨収集することは願意妥当。しかし、埋立てについては、遺骨収集が終わっていない場所の土砂を活用する計画であれば問題だと思ふ。遺骨が混入している可能性がある土砂なのかどうかということが不明なことから、継続的に審査をすべきと思ふ。」との意見がありました。

また、「尾花沢市民16名が沖縄で亡くなっているが、遺骨の収集を求めている方にはしっかりと対応しなければならないことから、調査を継続すべきだと思ふ。」との意見がありました。

以上のことから、採決の結果、閉会中の継続審査とすることに、決した次第であります。

以上で報告を終わりますが、何とぞ、当委員会の決定に対し、議員各位のご賛同をお願い申し上げ、報告といたします。

◎議長（青野隆一議員）

これより質疑に入ります。ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎議長（青野隆一議員）

質疑もないようでありますので、終結いたします。

この際申し上げます。令和3年請願第6号については、委員長から、会議規則第111条の規定により、閉会中の継続審査の申し出があります。

お諮りいたします。委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎議長（青野隆一議員）

ご異議なしと認めます。よって、令和3年請願第6号は、委員長からの申し出のとおり、閉会中の継続審査とすることに決しました。

以上で、本日の会議の日程は全部終了いたしました。

本日は、これにて散会いたします。大変ご苦勞様でございました。

散会 午後4時15分